

**板橋第六小学校改築計画
基本構想・基本計画報告書
(案)**

令和7年2月

板橋区教育委員会事務局

目 次

第1章 はじめに

- 1-1 改築に至る経緯・・・・・・・・4
- 1-2 本報告書の役割と位置づけ・・・・・・・・4

第2章 基本方針

- 2-1 文部科学省による学校整備の方針・・・・・・・・6
- 2-2 板橋区における学校施設整備の基本的な考え方について・・・・・・・・7
- 2-3 新しい板橋第六小学校のコンセプト・・・・・・・・8

第3章 学校の現状

- 3-1 板橋第六小学校の概要・・・・・・・・10
- 3-2 敷地の状況・・・・・・・・12
- 3-3 既存校舎の状況・・・・・・・・14
- 3-4 電気、ガス、水道及び下水道等の関する状況・・・・・・・・18

第4章 計画条件

- 4-1 学校建設に関連する周辺環境の状況・・・・・・・・20
- 4-2 都市計画等の状況・・・・・・・・21
- 4-3 計画の留意事項・・・・・・・・23
- 4-4 施設構成と規模・・・・・・・・24
- 4-5 個別の計画目標・・・・・・・・28

第5章 配置の検討

・・・・・・・・38

第6章 活動経過

・・・・・・・・47

資料編

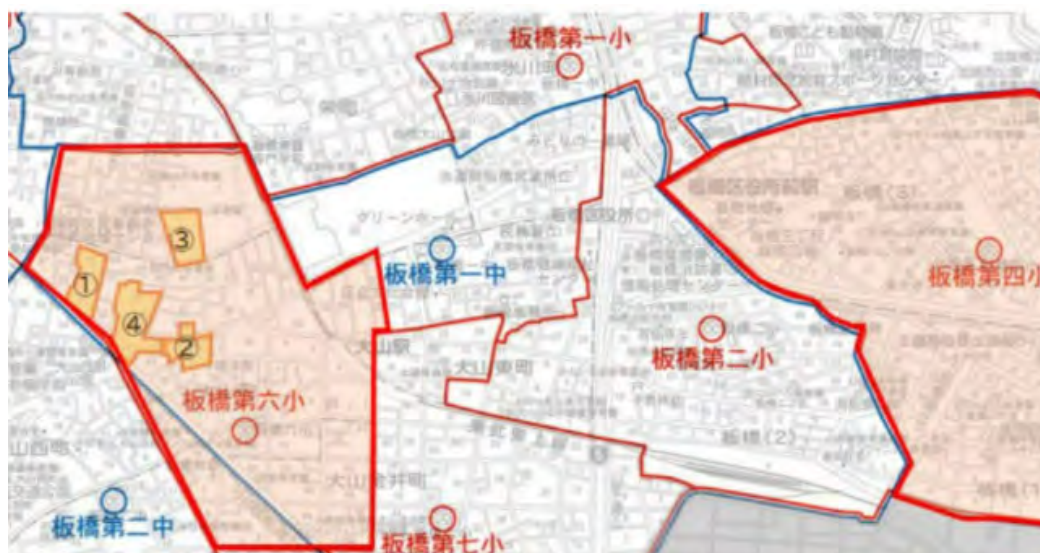
- 1 板橋第六小学校の改築に関する地域からの意見・・・・・・・・49
- 2 改築検討会・ワークショップの各回の概要・・・・・・・・51
- 3 板橋第六小学校の改築に関するアンケート調査結果の概要・・・・・・・・65

第 1 章 はじめに

1-1 改築に至る経緯

板橋区教育委員会では学校の老朽化対策と適正規模・適正配置の取組を一体的に進めるために、平成 26（2014）年 2 月「いたばし魅力ある学校づくりプラン」を策定した。同プランでは、昭和 30 年代に建設され、大規模な改修工事を実施していない学校を前期計画の対象校とし、近隣校の状況も踏まえ、施設の整備方針を検討している。

板橋第六小学校については、前期計画の対象校ではないが、地区約 60 年を経過し、近い将来、施設整備の対応が必要であるとともに、通学区域内で大規模集合住宅の建設が集中したことにより、教室数の不足が見込まれたため、現地での建替えにて対応することとなった。



※区域図内の①～④は、再開発事業における大規模マンションの計画地

図 板橋第六小学校 通学区域

1-2 本報告書の役割と位置づけ

本報告書は、板橋区として一貫性を持って学校施設整備を進めていくための考え方である「板橋区立学校施設標準設計指針」をもとに板橋第六小学校改築計画に向けて、学校、地域関係者から学校らしさ、地域らしさを踏まえ、区の計画として改築事業に反映するために、それぞれの関係者の意見を整理して、どの機能を充実させるべきか、検討したものである。

検討にあたり、学校関係者・地域を対象としたアンケート結果や、保護者・地域関係者・学校関係者により構成された「板橋第六小学校改築検討会」の検討委員、教職員、児童等にて実施したワークショップでの意見も踏まえている。

板橋第六小学校改築計画における施設づくりの考え方として、本報告書を活かしていく。

第 2 章 基本方針

学校施設を取り巻く社会情勢の変化、上位計画・関連計画等、小中学校の現状等を受けて、板橋区の新たな小学校における目指すべき学校建設のコンセプト及び整備方針を定める。

2-1 文部科学省による学校整備の方針

(1) 新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について

「板橋区教育ビジョン 2025」は、平成 28 (2016) 年に策定された。その後、6 年の間に超スマート社会 (Society5.0) (*1) に向けた技術革新が進展する一方で、新型コロナウイルス感染対策とポストコロナ時代における「新たな日常」等、教育を取り巻く環境は急激に変化している。

このような時代にあって、文部科学省では、教育が直面する課題を解決していくための学校づくりについて「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方」(令和 4 年 3 月) が報告され、下記の 5 つの方向性が示されている。

全ての子どもたちの可能性を引き出す、
個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実



新しい時代の学び舎として目指していく姿 (イメージ図)

【新しい時代の学び舎として創意工夫により特色・魅力を発揮】

- 学び ≫ 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向け、柔軟で創造的な学習空間を実現する
- 生活 ≫ 新しい生活様式を踏まえ、健やかな学習・生活空間を実現する
- 共創 ≫ 地域や社会と連携・協働し、ともに創造する共創空間を実現する

【新しい時代の学び舎の土台として着実に整備を推進】

- 安全 ≫ 子供たちの生命を守り抜く、安全・安心な教育環境を実現する
- 環境 ≫ 脱炭素社会の実現に貢献する、持続可能な教育環境を実現する

【出展：新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について 最終報告より】

さらに、「第 4 期教育振興基本計画」(令和 5 年 6 月) では日本社会に根差したウェルビーイングの向上といった考え方も出てきている。子どもたちのウェルビーイングを高めるためには教師をはじめとする学校全体のウェルビーイングが重要であり、また、子どもたち一人一人のウェルビーイングが、家庭や地域、社会に広がっていき、その広がりが多様な個人を支え、将来にわたって世代を超えて循環していくという姿の実現が求められる、との考えのもとに、5 つの基本的な方針と 16 の目標と基本施策、指標が示されている。

ウェルビーイングとは

- 身体的・精神的・社会的に良い状態にあることをいい、短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義などの将来にわたる持続的な幸福を含む概念。
- 多様な個人がそれぞれ幸せや生きがいを感じるとともに、個人を取り巻く場や地域、社会が幸せや豊かさを感じられる良い状態にあることも含む包括的な概念。

日本社会に根差した
ウェルビーイングの向上



日本発・日本社会に根差したウェルビーイングの向上

日本の社会・文化的背景を踏まえ、我が国においては、自己肯定感や自己実現などの獲得的な要素と、人とのつながりや利他性、社会貢献意識などの協調的な要素を調和的・一体的に育み、日本社会に根差した「調和と協調」に基づくウェルビーイングを教育を通じて向上させていくことが求められます。

日本社会に根差した
ウェルビーイングの向上



【出展：第 4 期教育振興基本計画 (リーフレット) より】

（２）ウェルビーイング向上のための学校施設づくりについて

具体的なウェルビーイング向上のための学校施設づくりについては、「ウェルビーイング向上のための学校施設づくりのアイデア集」（令和 6 年 9 月）において、「共創」「生活」「学び」「環境」「安全」の 5 つの観点から、72 校の事例（既存施設約 30 校の改修・活用改善事例を含む）を基に、89 のアイデア、5 つのコラムを掲載し、併せて、学校施設づくりの現状・課題の把握、及び効果の把握・検証に向けた取組事例についても掲載している。

ウェルビーイング向上のための学校施設づくりのアイデア集 概要

学び



写真：（左から）富山県富山市立芝園小学校、千葉県柏市立田中北小学校、愛知県瀬戸市立品野台小学校、東京都京都市立開建高等学校、ドルトン東京学園中部・高等部、千葉県柏市立田中北小学校

01 <子どもたちが活動空間を広げていく普通教室>

ICTで複線型の授業を実現

- ・15年経過した校舎で、ICTを活用し、個別学習や協働的な学習が非同期的に分散して現れる複線型の授業が展開される。児童は教室からオープンスペースへ活動空間を広げていく。（富山県富山市立芝園小学校）

扉や壁を取り払う

- ・改修時に教室間の壁に扉を設け、学年担任制の下で学級間の連携が取りやすくなっている。（千葉県柏市立土小学校）
- ・普通教室とつながるオープンスペース。（広島県府中市立府中学園、千葉県千葉市立美浜打瀬小学校）

教室の「正面」は一つではない

- ・教室の前面、背面と、廊下側の可動式の壁面もホワイトボードに。（千葉県柏市立土小学校）
- ・教室前方の壁全体をホワイトボードに。（広島県福山市立常石ともに学園）

家具で空間をつくる

（北海道東川町立東川小学校、愛知県瀬戸市立品野台小学校、千葉県千葉市立美浜打瀬小学校）

03 <様々な対話や発表の形に対応した空間>

主体的な対話のための工夫

- ・教室にサークル対話用のベンチを配置。（広島県福山市立常石ともに学園）
- ・普通教室4つ分の大空間の教室が、小グループでの協働や全体向けの発表といった目的に応じて、形を変える。（京都市立開建高等学校）

発表・表現のステージ

（ドルトン東京学園中部・高等部、富山県富山市立芝園小学校・中学校）

02 <学び方をアップデートできる特別教室>

ICTを活かす特別教室

（東京学芸大学附属竹早小学校、東京都京都市立開建高等学校）

ICTを活用したものづくり

- ・課題解決型学習のアウトプットツールとして、児童生徒が自由に使える動画編集ができるハイスペックPCや3Dプリンターを置く「ラボ」を開設。（埼玉県戸田市立戸田東小学校・戸田東中学校）

04 <あらゆる場所で、学びのきっかけに触れる>

学びの刺激を与える展示

（広島県福山市立徳育学園、ドルトン東京学園中部・高等部）

<コラム>「感覚にやさしい社会をつくらう」の授業。

（神奈川県川崎市立新城小学校）

05 <知に出会い、探究する>

柔軟な学びの場と居心地よい読書空間の両立

- ・学校の中心に据えた図書室を囲むように配置した学習空間。（福島県大熊町立学び舎ゆめの森）
- ・子どもたちの日常動線に配置した図書室。（岐阜県瑞浪市立瑞浪北中学校、千葉県柏市立田中北小学校）
- ・地域住民と交わる場としての図書室。（北海道安平町立早来学園）
- ・図書室の書架配置を見直し、授業もできる広々とした閲覧スペースを確保。（東京都杉並区立井荻中学校）
- ・生徒がニーズに合わせて選択できる図書室内スペース。（ドルトン東京学園中部・高等部）
- ・図書室の外のデッキを読書テラスに。（千葉県柏市立土小学校）

【出展：ウェルビーイング向上のための学校施設づくりのアイデア集より】

2-2 板橋区における学校施設整備の基本的な考え方について

学校施設整備にあたっては、板橋区の施設整備に関連する計画等との整合をとることとし、特に以下の計画及び方針に示されている基本的な考え方等の内容を遵守することとする。

- ・いたばし魅力ある学校づくりプラン（平成 26 年 2 月）
- ・板橋区立学校施設標準設計指針（平成 28 年 3 月）
- ・板橋区立小中学校の適正規模及び適正配置に関する基本方針（令和 6 年 7 月）

【参考】

（仮称）いたばし魅力ある学校づくりプラン 2035（骨子案）

より抜粋※

新しい学校整備に向けて

今後の学校整備では、教育環境の変化に対して柔軟に対応できる施設を整備することに加えて、学校教育のみを考えるのではなく、防災・地域連携・環境への配慮・生涯学習との繋がりとといった機能や視点を持ち、地域資源や地域特性を生かした、特色ある学校づくりを行っていく。



2-3 新しい板橋第六小学校のコンセプト

(1) コンセプト策定にあたり

学校施設整備の基本的な考え方や敷地の条件・地域性の特色を踏まえながら、「板橋第六小学校改築検討会」での意見等をもとに、施設整備のコンセプトを示す。

施設整備コンセプトを踏まえ、配置計画、施設計画、構造計画、設備計画等に関する基本的な考え方を整理し、設計等の指針とする。

(2) 新しい板六小のコンセプト

[学習・教育]

変化に対応しやすい柔軟な学習空間の形成

- ・学校全体で多様な体験・学習・教育を受け止める学びの場
- ・児童数増減に柔軟に対応しやすい教室など将来の変化に配慮した校舎

[生活・居心地]

様々な体験と出会いを大切にする豊かな生活環境の創出

- ・好奇心を触発する様々な出会い、人と人の出逢いを大切する環境
- ・自律と自立を支援し、多様な選択肢のある空間を大切にした施設

[安全・安心]

安全が安心を生み児童と地域を守るみんなの家の形成

- ・死角が少なく、見渡せる環境とケガや衝突が起こりにくい工夫により、安全な生活の場
- ・児童への防犯を高め、地域の命を守る、安心して過ごせる学校

[環境・緑化]

健やかな心と体を育成する多様な居場所の提供

- ・遊具や球技が思い切りできる校庭や様々な場所で体を動かしたくなる屋外環境
- ・緑を大切に憩いとくつろぎがある環境や明るく風が通る快適な校舎

[地域・歴史]

歴史を継承し地域と子どもの夢と希望を育むまちの施設づくり

- ・100周年を迎える歴史に支えられ地域に根差した共育・共働による生涯学習施設
- ・大山駅周辺地区として地域に開かれ、にぎわいを活性化する地域コミュニティ拠点

第 3 章 学校の現状

3-1 板橋第六小学校の概要

(1) 板橋第六小学校の教育方針

目指す学校像

子どもの育成のために地域、保護者と協力・連携し、子どもの情操を育むとともに学力・体力を確実に伸ばす学校

目指す教育目標

自律心をもち「学び・心・体」の自立を目指す子

目指す子ども像

「自律」と「自立」
○自ら考え、挑戦し続ける子
○自他を尊重し、自ら判断し、責任ある行動のとれる子
○心と体を大切にし、困難にも立ち向かえる子

(2) 板橋第六小学校に関する基礎データ

令和6年5月1日現在を以下に示す。

児童数・学級数の推移

		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
普通学級	児童数	356人	349人	344人	362人	363人
	学級数	12学級	12学級	12学級	13学級	13学級

学年別児童数・学級数（普通学級）

学年	男子	女子	計	学級数
1年生	28名	32名	60名	2学級
2年生	31名	31名	62名	2学級
3年生	34名	40名	74名	3学級
4年生	30名	25名	55名	2学級
5年生	29名	26名	55名	2学級
6年生	32名	32名	64名	2学級
合計	184名	186名	370名	13学級

教職員数

校長	副校長	主幹教諭	主任教諭	指導教諭	教諭	主任養護教諭
1	1	3	9	1	9	1

計49名（他、講師3、特別支援教室専門員1、スクールカウンセラー1、学力向上専門員1、学校生活支援員1、事務主任1、学校運営員1、学校栄養士1、スクールサポートスタッフ1、ALT1、特別支援アドバイザー1、特別支援教室巡回心理士1、図書館司書1、学童誘導員9）

学校概要

- (ア) 所在地 東京都板橋区大山町13番1号
- (イ) 敷地面積 6,145.5 m²
- (ウ) 校舎延面積 4,987.79 m²
- (エ) 屋外運動場面積 3,581.7 m²
- (オ) 構造・階数 鉄筋コンクリート造 地上3階建て
- (カ) 沿革

年月日	内容
1993(S8)年4月1日	板橋第六尋常小学校開校（児童数1,141名 学級数21）
1947(S22)年4月1日	「板橋第六小学校」へ改称
1968(S43)年3月31日	校舎改築工事完了
1968(S43)年7月5日	屋上プール工事完了
1980(S55)年3月11日	理科室・旧家庭科室増築工事完了
1998(H10)年9月28日	耐震補強、備蓄倉庫、保健室、ランチルーム工事完了
2009(H21)年8月30日	校庭人工芝舗装工事完了
2023(R5)年12月2日	90周年記念式典挙行

【出典：令和6年度 板橋第六小学校 学校要覧より】

(3) 通学区域、敷地周辺案内図

通学区域は、板橋区の南部に位置する。川越街道（国道254号線）や東武東上線といった大きな交通網が通っており、各交通網を渡って通学しなければならないエリアがみられる。

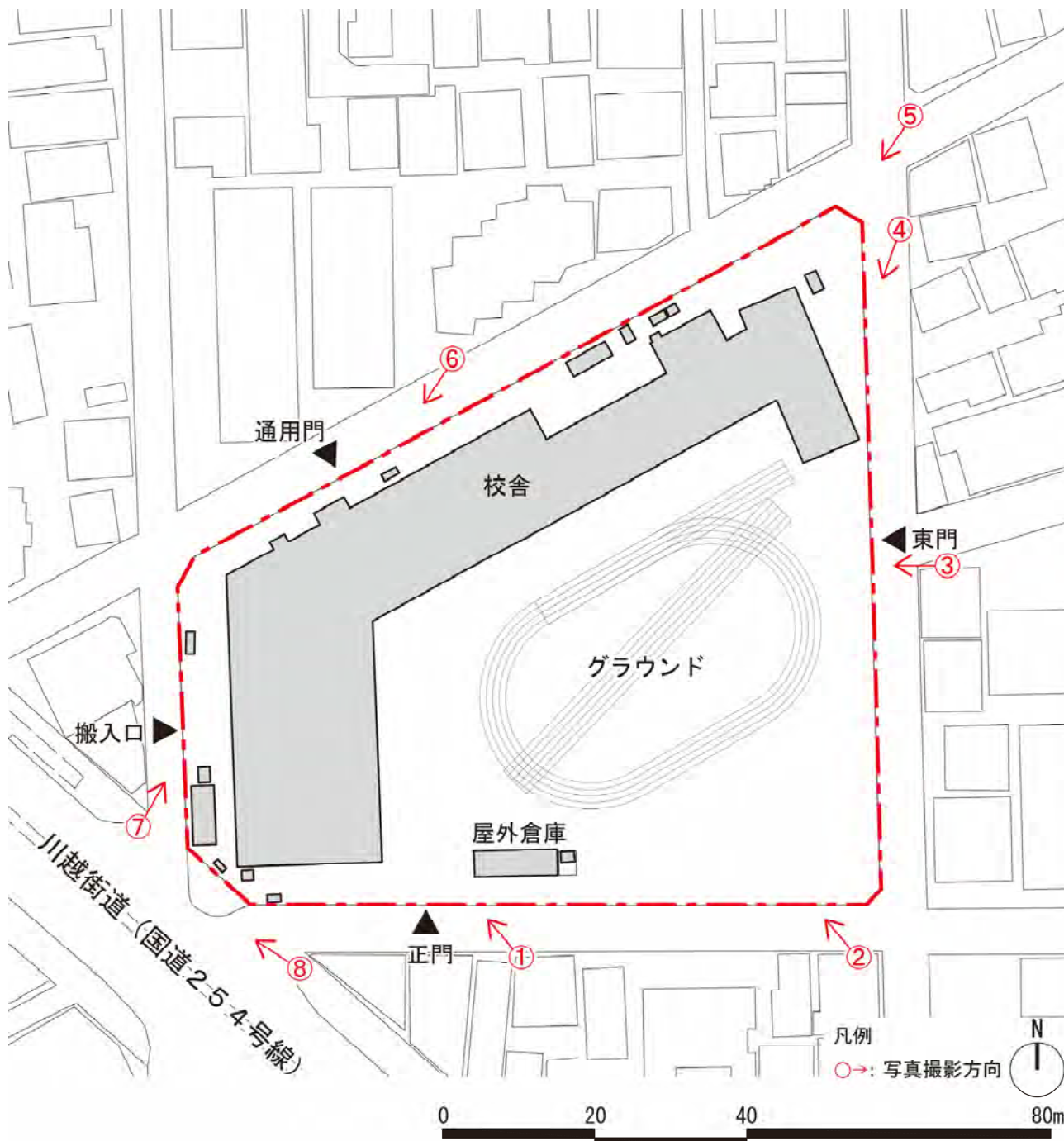


3-2 敷地の状況

(1) 敷地の特徴

敷地内の北東角地は、敷地外との高低差が約 2mあり、外周部に擁壁やフェンス、南側の一部に防球ネットが設置されている。敷地南側は、敷地外との高低差はほとんどない。グラウンドは、平成 21 年に改修され、人工芝舗装となっている。

(2) 敷地現況図



(3) 敷地周囲現況写真



①正門（南側）



②南側歩道



③東門



④東側歩道



⑤北東角地



⑥北側歩道・通用門



⑦搬入口

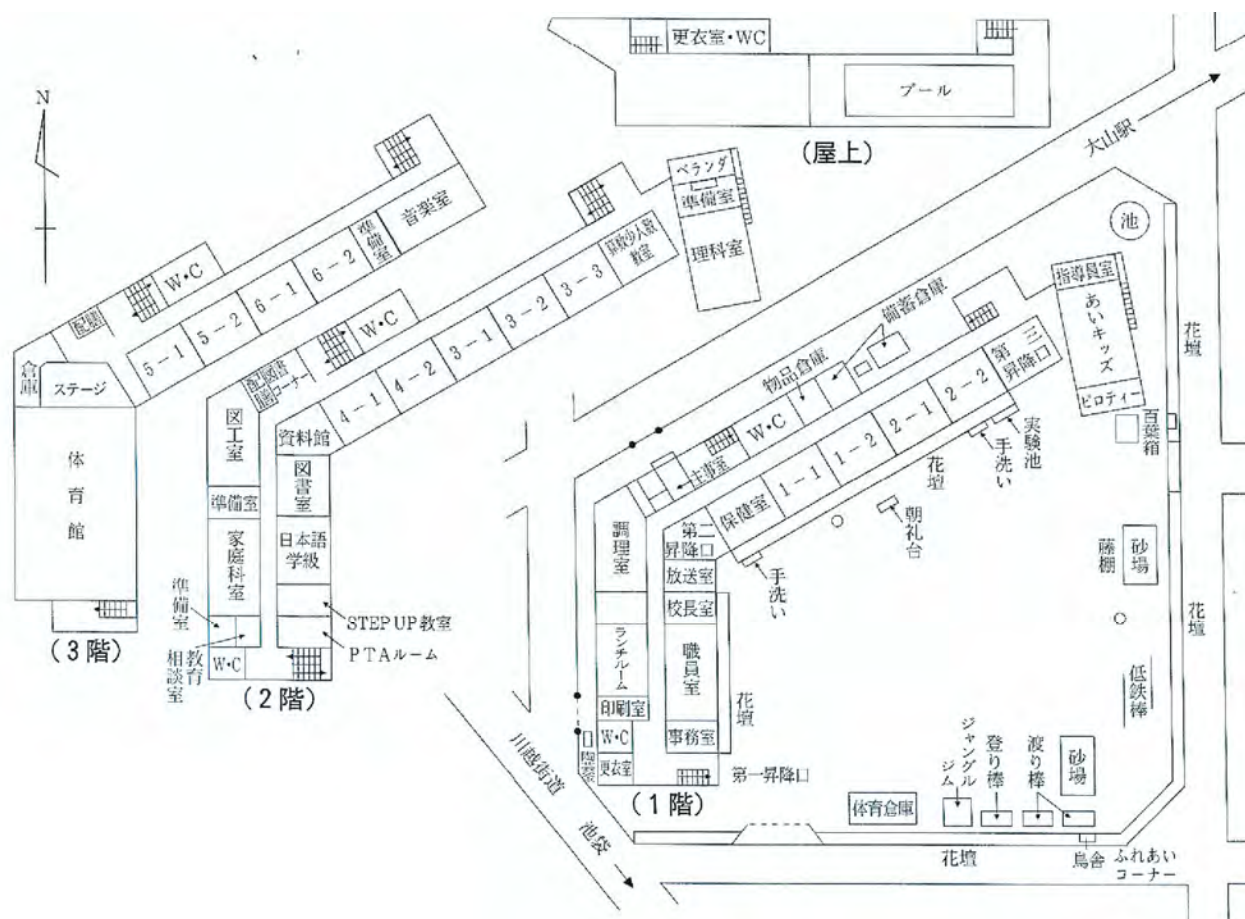


⑧川越街道（国道 254 号線）沿い

3-3 既存校舎の状況

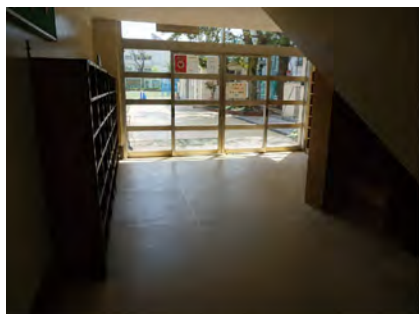
(1) 配置の特徴

L型に配置された校舎は3階建てであり、中央の階段をメイン階段としている。各階の南東側に、グラウンドに面した普通教室を配置した片廊下型の校舎形状となっている。西側1階には管理諸室（職員室・校長室等）、2階には特別教室、3階には体育館が配置されており、1階の管理諸室からはグラウンドが見渡せるようになっている。屋上には、屋外プールが配置されている。校舎東側の増築棟は、1階にあいキッズが配置されており、ピロティを介してグラウンドへ直接出入りすることができるようになっている。



【出典：令和6年度 板橋第六小学校 学校要覧より】

(2) 既存校舎現況写真



第一昇降口



第二昇降口



第三昇降口



校長室



職員室



職員室



職員室前の廊下



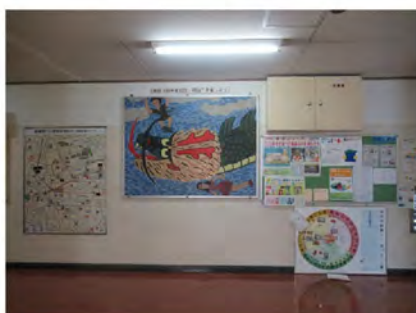
事務室



印刷室



階段室前の水回り



卒業記念品



普通教室



普通教室



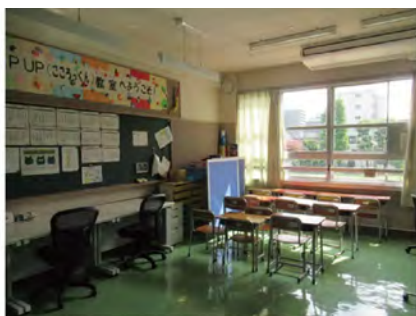
普通教室前廊下



普通教室前掲示板



保健室



特別支援学級 (STEP UP 教室)



図工室



図工室



家庭科室



家庭科室



理科室



理科室



理科室前廊下の収納棚



音楽室



音楽室



図書室



図書室



図書コーナー



図書コーナー



資料館（展示室）



PTA 室



ランチルーム



体育館



体育館入口周り



屋上プール



あいキッズ



あいキッズ事務室



あいキッズピロティ（出入口）



トイレ



校舎全景



グラウンド



体育倉庫



駐輪場



校舎前の花壇

3-4 電気、ガス、水道及び下水道等に関する状況

(1) 電気設備

① 電力引込み

- ・電線は敷地外周道路に通っており、既存校舎には敷地北側の電柱（大山 145）より敷地内に引込柱を設け、付近の屋外キュービクル（H21 改修）まで引込み、各負荷に電力を供給している。

※引込柱からキュービクルまでは地中埋設ルート（H16 改修）

② 弱電引込み

- ・敷地北側の電柱（西川支 5、西川支 6）間より、T 分岐で校舎北側外壁部より校舎に引き込んでいく。

③ 職員室設備

- ・自火報受信機 地図式 60 窓（R3 改修）、業務放送設備（H17 改修）、電気時計（H17 改修）

④ 放送室

- ・デスク型アンプ 10 回線

⑤ グラウンド

- ・リピーター盤 校舎 1 階外壁部に設置（既存図より）

(2) 機械設備

① 給水設備

- ・敷地北東側敷設給水本管 200A より 75A 1 か所を引込み供給している。
- ・既存校舎北側に有効容量 17.9 m³の受水槽（SUS 製）、校舎屋上に有効容量 5.4 m³の高架水槽（SUS 製）を設置し、高架水槽方式にて給水している。

※給食調理室とあいキッズ等の一部の室へは、直結給水にて給水されている。

② 排水設備

- ・本敷地周辺には、下水道台帳より 19 か所の公共枡が敷地周辺に設置されている。
- ・既存公共枡の管底はどれも GL-1000 前後の深さとなっている。

③ ガス設備

- ・敷地北側敷設低圧ガス本管 100A より、同じく 100A 1 か所を引込み供給している。
- ・共有した低圧ガスはさらに 3 つのガスメーターを経由しており、それぞれ一般・暖房用、GHP 用、給食調理室用となっている。

第 4 章 計画条件

4-1 学校建設に関連する周辺環境の状況

(1) 敷地の周辺環境

敷地は、東武東上線大山駅より南西に約 300m（徒歩約 5 分）に位置している。全周道路に囲まれており、南西側は交通量の多い 4 車線の川越街道（国道 254 号線）に近接しているため、車通行の騒音等に配慮が必要となる。また、敷地の周囲は住宅地となっており、北側、西側、南側に中高層の集合住宅、東側は戸建て住宅等の低層建物が多くみられるため、騒音や視線の交錯等に配慮が必要となる。隣接する道路は、西側を除いて全て一方通行道路となっているため、動線計画の配慮が必要となる。

付近には、ハッピーロード大山商店街が位置しており、人や自転車の通行量が多くみられる。敷地周辺には公園や緑地がなく、板橋第六小学校のグラウンドが子どもたちの遊び場として利用されている。



敷地周辺図



ハッピーロード大山商店街
【出展：コマチ HP より】



川越街道（国道 254 号線）

(2) 周辺道路の状況

北側	公道	認定幅員	6.363m	(建築基準法 42 条 1 項 1 号道路)
東側	公道	認定幅員	6.363m	(建築基準法 42 条 1 項 1 号道路)
南側	公道	認定幅員	6.363m	(建築基準法 42 条 1 項 1 号道路)
西側	公道	認定幅員	6.363m	(建築基準法 42 条 1 項 1 号道路)
南西側	公道	認定幅員	25m	(建築基準法 42 条 1 項 1 号道路)

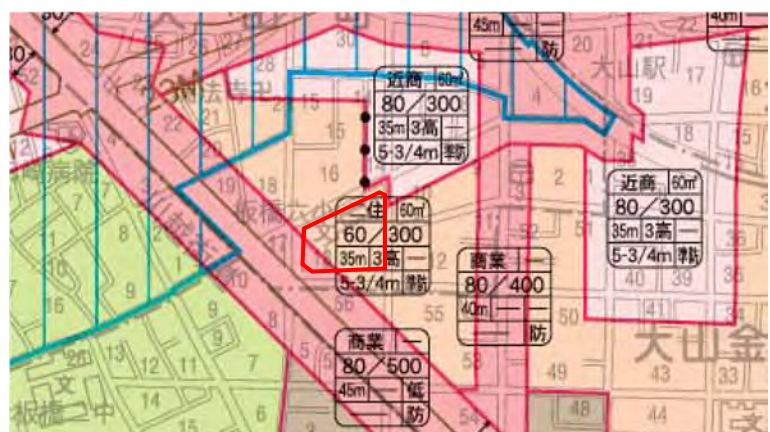
4-2 都市計画等の状況

(1) 都市計画

用途地域	南西側道路境界線より 30m の範囲 商業地域	左記以外の範囲 第二種住居地域（過半）
建蔽率	80%	60%
容積率	500%	300%
防火地域の指定	防火地域	準防火地域
高度地区	最高限度 45m、最低限度 7m	第三種高度地区、最高限度 35m
日影規制	なし	5 時間-3 時間/4m
地区計画	大山駅西地区地区計画（地区区分：なし） 国道 254 号線（川越街道）A 地区沿道地区計画 （地区区分：ハ）	大山駅西地区地区計画 （地区区分：住宅地区）

都市計画図 1 用途地域

一低	第一種低層住居専用地域
一中高	第一種中高層住居専用地域
二中高	第二種中高層住居専用地域
一住	第一種住居地域
二住	第二種住居地域
準住	準住居地域
近商	近隣商業地域
商業	商業地域
準工・特	準工業地域(第二種特別工業地区)
準工	準工業地域
工業・特	工業地域(第一種特別工業地区)
工業・特	工業専用地域(第一種特別工業地区)
工業	工業専用地域



都市計画図 2 都市計画道路、地区計画等

【都市計画図の凡例】	
(都市計画施設)	
道路	
完了	都市高速鉄道
事業中	事業中
未着手	未着手
(第四次事業化計画後先整備路線)	
公園	
完了	緑地
事業中	
未着手(優先整備区域)	
未着手	
その他	
駐車場	その他施設施設
自転車ターミナル	地域中核施設
下水道(完了)	市場
下水道(事業中)	一団地の住宅施設
ごみ焼却場	流通業務施設
(地区計画等)	
地区計画	沿道地区計画
地区計画(地区区分)	沿道地区計画(地区区分)



宅地造成等工事規制区域：敷地全域指定
景観計画区域（一般地域）：敷地全域指定

(2) 関係法令等

関係法令等	関連内容の概要
建築基準法関係法令	・ 建築物のエネルギー消費性能の向上に関する法律関連
都市計画法関係法令	・ 開発許可
東京都条例	・ 東京都建築安全条例 ・ 東京都中高層建築物等に係る紛争の予防と調整に関する条例 ・ 東京都火災予防条例 ・ 東京都福祉のまちづくり条例 ・ 東京都高齢者、障害者等が利用しやすい建築物の整備に関する条例（建築物バリアフリー条例） ・ 東京都駐車場条例 ・ 東京都における自然の保護と回復に関する条例 ・ 東京都環境確保条例（土壌汚染対策） ・ 東京都建築物環境計画書制度
板橋区条例	・ 板橋区 大規模建築物等指導要綱 適用事業（2） ・ 板橋区 中高層建築物等の建築に係る紛争の予防と調整に関する条例 ・ 板橋区 雨水流出抑制施設設置指導要綱 ・ 板橋区 福祉のまちづくり整備指針 ・ 板橋区 廃棄物条例 ・ 板橋区 緑化の推進に関する条例 ・ 板橋区 景観条例 ・ 板橋区土壌汚染調査・処理要綱
その他関係法令	・ 消防法 ・ 高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律（バリアフリー法） ・ 学校教育法（同施行規則の小学校設置基準） ・ 道路交通法 ・ 文化財保護法 ・ 土壌汚染対策法 ・ 景観法 ・ 幹線道路の沿道の整備に関する法律 ・ 宅地造成及び特定盛土等規制法 ・ 建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律（建設資材リサイクル法） ・ 道路法

※今後の協議により変更の可能性あり

4-3 計画の留意事項

(1) 水害への対応について

本敷地の北側一部について、想定最大規模降雨時の浸水リスクハザードマップ（総雨量 690 mm、時間雨量 153 mmを想定）では、想定される浸水深さが 0.1m～0.5 未満である。したがって、屋内運動場や防災備蓄倉庫、防災設備機器の設置階については、十分検討する必要がある。



集中豪雨ハザードマップ

(2) 校舎配置

児童数増加により教室数が不足した場合は、仮設校舎を建設する可能性があるため、仮設校舎の建設想定位置を考慮した校舎配置を検討する。仮設校舎の建設を実施する場合は、一部既存トラックに干渉する部分があるため、既存トラックの引き直しも検討する。



4-4 施設構成と規模

(1) 計画児童数及び学級数

令和 20 年度の児童数・学級数の将来推移（759 人・24 学級）を基準とし、計画を進める。ただし、一時的な学級数増に対応できるよう 3 教室分程度は、普通教室に転用可能な室を別途設けることとする。

なお、将来的には児童数の減少が見込まれていることから、ほかの公共施設との複合化や生涯学習機能の併設、地域利用の拡大等の可能性に配慮する。

児童数・学級数の将来推移（令和 6 年 11 月 1 日現在）

		令和 10 年度	令和 15 年度	令和 20 年度	令和 25 年度	令和 30 年度
普通学級	児童数	407 人	643 人	759 人	608 人	400 人
	学級数	13 学級	22 学級	24 学級	20 学級	14 学級

(2) 諸室の構成及び規模

室・面積算定

- ・ 1 学級あたり 35 人を上限として設定するとともに、新 JIS 規格に対応した机の導入、様々な学習形態へ対応するため、1 コマを約 68 m²として設定する。

運営方式

- ・ 教室に隣接した空間に「オープンスペース（多目的スペース）」を設置し、教室と一体となった大きな空間を活用して、個別学習・協働学習・発表活動等の主体的・能動的な学習活動（アクティブラーニング）を実現するオープンスペース運営方式を採用する。

検討の諸条件

- ・ 設計においては、低学年の教室移動負担が軽減できるような教室数の確保と教室配置の検討が必要である。
- ・ 床面積が課題とならないように、共有できる教室を設定するなどして、利用率の低い教室をつくらないように室・面積を構成するよう工夫を行う必要がある。
- ・ 教室数の検討を踏まえ、施設計画の目標を実現するための室・面積構成表を次項に示す。

◇普通教室・特別支援

1コマ=68㎡ (8m×8.5m)

	まとめ	室名	コマ	室数	計	備考
普通 教室 まわり	1年	普通教室	1.0	4	4.0	ロッカーコーナー含む
		多目的スペース	1.0	1	1.0	教室に隣接
		教材室	0.2	1	0.2	
		児童トイレ	0.6	1	0.6	男女別
		小計			5.8	
	2年	普通教室	1.0	4	4.0	ロッカーコーナー含む
		多目的スペース	1.0	1	1.0	教室に隣接
		教材室	0.2	1	0.2	
		児童トイレ	0.6	1	0.6	男女別
		小計			5.8	
	3年	普通教室	1.0	4	4.0	ロッカーコーナー含む
		多目的スペース	1.0	1	1.0	教室に隣接
		教材室	0.2	1	0.2	
		児童トイレ	0.6	1	0.6	男女別
		小計			5.8	
	4年	普通教室	1.0	4	4.0	ロッカーコーナー含む
		多目的スペース	1.0	1	1.0	教室に隣接
		教材室	0.2	1	0.2	
		児童トイレ	0.6	1	0.6	男女別
		小計			5.8	
	5年	普通教室	1.0	4	4.0	ロッカーコーナー含む
		多目的スペース	1.0	1	1.0	教室に隣接
		教材室	0.2	1	0.2	
		児童トイレ	0.6	1	0.6	男女別
		小計			5.8	
	6年	普通教室	1.0	4	4.0	ロッカーコーナー含む
		多目的スペース	1.0	1	1.0	教室に隣接
		教材室	0.2	1	0.2	
		児童トイレ	0.6	1	0.6	男女別
		小計			5.8	
特別支援教室(通級)	特別支援教室（通級）	1.0	1	1.0		
	教材室	0.5	1	0.5		
	小計			1.5		
共用	生活科室	1.0	1	1.0	音楽、算数少人数。低学年が利用	
	少人数教室	1.0	3	3.0	予備教室3教室兼用	
	小計			4.0		
合計					40.3	

◇特別教科・メディアセンター等

	まとめり	室名	コマ	室数	計	備考
特別 教室 まわり	図工	図工室	1.5	1	1.5	
		図工準備室	0.5	1	0.5	
		図工メディアスペース	0.2	1	0.2	掲示・展示スペース
		小計			2.2	
	理科	理科室	1.5	2	3.0	2室(実験)、講義は普通教室・少人数教室を利用
		理科準備室	0.5	2	1.0	
		理科メディアスペース	0.2	1	0.2	掲示・展示スペース
		小計			4.2	
	家庭科	家庭科室	2.0	1	2.0	調理・被服兼用
		家庭科準備室	0.3	1	0.3	
		家庭科メディアスペース	0.2	1	0.2	掲示・展示スペース
		小計			2.5	
	音楽	音楽室	1.5	2	3.0	
		音楽準備室	0.3	2	0.6	
		楽器庫	0.5	1	0.5	
		音楽メディアスペース	0.2	1	0.2	掲示・展示スペース
		小計			4.3	
多目的ホール	多目的ホール	2.0	1	2.0	2学級70名想定	
	小計			2.0	ランチホール兼用	
メディアセンター	図書室	3.0	1	3.0	10360+200×	
	アクティブラーニングスタジオ (PC)	1.0	1	1.0	(24-18) = 11560冊	
	小計			4.0	(文科省基準)	
特別活動	児童会	0.4	1	0.4		
	放送室	0.3	1	0.3		
	小計			0.7		
生活諸室	児童更衣室	0.5	6	3.0	男女別、適所に分散配置	
	児童昇降口	2.0	1	2.0		
	小計			5.0		
合計					24.9	

◇管理諸室・保健室・あいキッズ・地域連携

	まとめ	室名	コマ	室数	計	備考
管理諸室	校長	校長・応接	0.5	1	0.5	
	校務センター	事務	0.5	1	0.5	
		用務主事	0.5	1	0.5	
		執務スペース	3.0	1	3.0	4㎡/人×50人=200㎡
		印刷	0.2	1	0.2	
		教職員ラウンジ	0.3	1	0.3	
	会議	会議	1.5	1	1.5	2㎡/人×50人=100㎡
	共通	倉庫・書庫	0.5	2	1.0	
		職員更衣・休憩	0.5	2	1.0	
		職員・一般トイレ	0.5	2	1.0	
		職員・一般玄関	0.5	1	0.5	
		小計			10.0	
保健・相談		保健室	1.0	1	1.0	
		カウンセリング	0.2	1	0.2	
		教育相談室	0.3	1	0.3	
		校内別室	1.0	1	1.0	不登校児童等の居場所
		小計			2.5	
地域連携		PTA室	0.5	1	0.5	
		地域連携室	0.5	1	0.5	
		展示スペース・メモリアルコーナー	0.5	1	0.5	
		授乳室	0.1	1	0.1	
		小計			1.6	
あいキッズ		児童専有面積	6.5	1	6.5	(1.98×1.1) ㎡/人×200人=436㎡
		トイレ等・付帯諸室	2.0	1	2.0	
		小計			8.5	
給食施設		給食調理室	4.5	1	4.5	300㎡
		小計			4.5	
合計					27.1	

屋内運動場等

	まとめ	室名	コマ	室数	計	備考
屋内運動場		アリーナ	12.4	1	12.4	(32+5) m×24m ステージ含む
		器具庫他	1.0	1	1.0	
		小計			13.4	
屋内プール		プール	8.2	1	8.2	(25+3+3) m×(12+3+3) m、6コース
		付帯施設	3.0	1	3.0	
		小計			11.2	
防災備蓄倉庫		防災備蓄倉庫	1.0	1	1.0	
		小計			1.0	
屋外倉庫		屋外倉庫	2.0	1	2.0	
		屋外トイレ	0.6	1	0.6	
		小計			2.6	
合計					28.2	

計画目標床面積

室合計				120.5	コマ
廊下等共用部	全体室面積の25%	30.1	1	30.1	コマ
総合計				150.6	コマ
㎡換算	(1コマ68㎡換算)			10,240.80	㎡
				9800㎡~10,800	㎡

4-5 個別の計画目標

施設計画にあたっては、「2-2 板橋区における学校施設整備の基本的な考え方」のとおり板橋区立学校施設標準設計指針等に準拠するものとし、加えて「2-3 新しい板橋第六小学校のコンセプト」を実現するため、特に配慮すべき項目を「施設計画の目標」として以下に整理する。

(1) 配置計画

①門・アプローチ等

- ・正門は、既存と同位置を基本とし、児童の主な登校門として安全面に配慮した計画とする。
- ・地域とのつながり、児童のスムーズな登下校に配慮した正門以外のアプローチ門を計画することが望ましい。
- ・給食搬入用の車両門は、児童の登校門とは別に設け、周辺の道路状況や近隣への影響を考慮した配置とする。
- ・敷地周囲との高低差を考慮し、各門から敷地内及び校舎までのアプローチを検討する。

②屋外運動場

- ・100mトラック及び50m直走路を確保するとともに、なるべく現況と同等の面積確保を目指す。
- ・校庭は人工芝を基本とするが、一部舗装を変えてイベントや防災訓練等に活用できるよう検討する。
- ・敷地が狭隘であるため、屋上運動スペースを設けることを検討する。

③駐車場・駐輪場

- ・駐車場は、最低限、身体障がい者用駐車場1台を確保する。
- ・駐車場は、十分な転回スペースを確保し、円滑な車両動線が確保することが望ましい。
- ・駐輪場は、職員用駐輪スペースを確保するとともに、来校者の駐輪スペースを確保する。

(2) 平面計画

①全体計画

[動線計画]

- ・児童の日常的な上下階の移動の負担が少なくなるような動線計画とする。

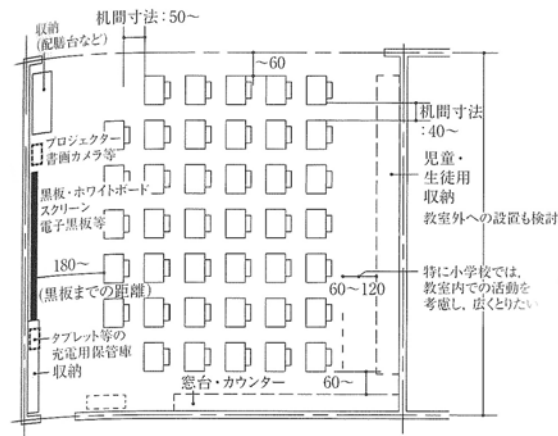
[ゾーニング]

- ・学年のまとまりをもった配置とする。
- ・地域利用や休日等の校舎利用ゾーンを設定し、適切な管理ができる計画とする。
- ・将来的な空き教室の転用も想定し、階段や廊下の位置をバランスよく計画する。

②普通教室・特別支援教室・少人数教室

[普通教室まわり]

- ・ロッカーは可動式にする、背面を板書面にする等、柔軟な学習空間を形成できる計画とする。
- ・オープンスペースは、多様な学習活動に対応できるよう普通教室に近接して計画する。
- ・廊下やホール等の共用部に憩いの場となるベンチコーナーや居場所となる小空間の設置等、個別最適な環境に配慮した計画とする。



【出典：第4版 コンパクト建築設計資料集成 普通教室の寸法 より】

【特別支援教室まわり】

- ・児童の個別指導やクールダウン等に使用する。
- ・普通教室や職員室等に行きやすい配置とする。

【少人数教室】

- ・学級数の変化に対応するため、普通教室へ容易に転用できる設えとする。

③メディアセンター（図書館）

- ・各教室から利用しやすく、図書を身近に感じられるよう、学校の中心となるような配置とする。
- ・図書の閲覧等だけでなく、調べものの学習や学習発表等、多様な授業展開ができる計画とする。

④多目的ホール

- ・学年集会や異学年交流等といった学校活動や地域の集会等、多目的に使用できる計画とする。
- ・各教室からだけでなく、地域住民や外部講師等も利用しやすい位置に計画する。

⑤特別教室

- ・教科の展示スペースとなるメディアスペースを設ける。
- ・家庭科室は1室とするが、調理と被服実習が行いやすい面積を確保する。
- ・図工室は、普通教室内でも授業を行う想定で1室とするが、理科室、音楽室は中高学年がそれぞれに利用できるよう、2室ずつ設ける。

⑥共用スペース

【昇降口】

- ・利用が集中した際の混雑に配慮した配置・空間を検討する。
- ・一足制（上下足の履き替えなし）を見据えた計画とするが、工事の整備段階を踏まえ、運用開始時期について検討する。

【トイレ・手洗い場】

- ・男女別を基本とし、バリアフリー以外にオールジェンダーに対応する男女共用のトイレの設置を検討するとともに、視認性等の安全確保についても配慮する。
- ・バリアフリー法等の改正に伴い、車いす使用者用トイレは各階に配置する。

⑦管理諸室

〔職員室・事務室〕

- ・校長室と隣接して配置するとともに、事務室・印刷室等の機能と執務スペースが一体的となった「校務センター」として計画する。
- ・教員のリフレッシュスペースとなるラウンジを設けることを検討する。

⑧保健室・教育相談室等

〔保健室〕

- ・屋外から直接出入りでき、緊急車両を横付けできるよう、極力1階に配置する。

〔教育相談室〕

- ・カウンセリングしやすく落ち着いた空間づくりに配慮した計画とする。

〔校内別室〕

- ・教室以外の居場所として、安心して過ごすことができるよう、設置位置も含め環境に配慮した計画とする。
- ・落ち着きやりリフレッシュするための場所として、内装や家具にも配慮した計画とする。

⑨屋内運動場

- ・のびのびと運動ができるよう十分な大きさを確保する。
- ・災害時の避難場所になるため、屋外運動場と屋内運動場は行き来しやすい計画とする。

⑩プール

- ・猛暑日におけるプール授業の中止やプール設置の拠点校化を鑑み、屋内プールを検討する。
- ・設置場所により、上下移動距離が長くなる場合は、移動手段、方法について検討を行う。
- ・プール利用をしない時期は、多目的利用ができる等、空間の有効活用を検討する。

⑪給食調理室・配膳室

- ・情報掲示スペースを設けるとともに、調理の様子を児童が見ることができる工夫を行い、食育につながるようにする。

⑫PTA室・地域連携室

- ・PTAやコミュニティ・スクールの活動の場として、整備する。
- ・外部出入り口を計画する等、学校運営と区画しやすい計画とする。

⑬あいキッズ

- ・将来の児童数の変化に柔軟に対応できるよう配慮した計画とする。
- ・保護者の送迎のしやすさに配慮した計画とする。
- ・トイレは男女別に利用人数に応じた数を設置する。

⑭その他

〔木質化〕

- ・ 来校者の目に触れやすい昇降口や、落ち着きや親しみやすさを求めるメディアセンターを中心に木質化し、豊かな教育環境づくりを行う。

〔外構・みどり〕

- ・ 雨天時の遊び場になり、また校舎内への出入りがしやすくなるようピロティを検討する。
- ・ 身近に自然に触れ合え、感じられるような緑化計画とする。

〔ユニバーサルデザイン等〕

- ・ 児童、教職員、地域利用者及び災害避難者等の多様な利用者が快適に利用できるようユニバーサルデザイン、バリアフリーに配慮した計画とする。

（３）構造計画

①構造計画における基本的な考え方

〔構造計画の性能目標〕

- ・ 災害時の避難所となることから、人命の安全確保に加えて機能確保が図れるよう、十分な安全性を確保する。
- ・ 経年劣化や環境条件による影響に対して十分な耐久性を確保するとともに、修繕やメンテナンス性にも配慮する。
- ・ 将来的な施設機能の変化にフレキシブルに対応できるよう、適切な柱の配置とする。
- ・ 構造体、非構造部材の耐震安全性を確保するとともに、耐風・耐雪についての安全性も確保する。

〔構造体の設計方針〕

- ・ 建物形状は、変形、ねじれ及び力の集中等が生じることのないよう構造的に均衡のとれた形状を目指す。
- ・ 基礎は、敷地の地盤構造を十部に理解し、上部構造を支持する計画とする。なお、杭や地盤改良を計画する際は、周辺敷地への影響に十分留意し、低騒音かつ低振動の施工が行える工法を選定する。

②構造種別及び構造形式

【構造種別】

建築における主な構造種別である、鉄骨造（Ｓ造）と鉄筋コンクリート造（ＲＣ造）の比較を、下表に示す。諸室の必要面積、空間寸法等から適切な柱スパンを計画し、コストや教育環境等の観点から構造種別を決定する。

	メリット	デメリット
Ｓ造	①比較的工期が短い 先行工事（解体・地下等）が無い場合、鉄骨製作期間がクリティカルとなり、短縮が見込めないこともある。 ②現場作業の省力化 ③軽量化（基礎工事費に影響） ④10m超のロングスパンが可能 学校校舎においては教室寸法が約8m×8m程度であるので、必ずしもメリットとはならない。	①建物が揺れやすい 制振やブレース構造とすることで、揺れを低減することも可能。 ②施工時に大型重機が必要 ③外壁の仕様が限定的（外壁デザインが単調になりやすい） ④シールの打替え等、修繕費が高い ⑤外壁廻りに多くの２次部材（下地）が必要
ＲＣ造	①学校建築として歴史が長く実績が多い ②在来工法である ③建物の揺れが小さい ④複雑な建物形状に対応可能	①建物重量が大きい （基礎工事費に影響） ②柱スパンは8～9mが限度 学校校舎においては教室寸法が約8m×8m程度であるので、必要十分である。なお、プレストレストコンクリート梁とすることでロングスパンも対応可能。 ③躯体工事が天候に左右されやすい ④将来的な職人不足の懸念（主に鉄筋・型枠工）
その他	・一般的に耐用年数はＲＣ造の方が長いとされているが、Ｓ造であっても適切なメンテナンスにより、躯体の耐用年数を延ばすことが可能である。 ・躯体費はＳ造が比較的安価となる。ただし、仕上げ（主に外壁）を含めたコストは外壁仕様、建物形状によって異なり、外壁の仕様を落とさないと、ＲＣ造の方が安価となる傾向がある。	

【構造形式】

構造形式は免震構造・制振構造・耐震構造に大別される。学校建築に求められる耐震安全性に対し、免震構造はコストと性能のバランスが悪い。制振構造は、中低層建物が多い学校建築では、効果を発揮しづらい。耐震構造は、多くの学校建築実績があるが、免震・制振構造と比べると建物の揺れは大きくなる。各構造形式の特徴や校舎の配置・形状を踏まえ、最適な構造形式を決定する。

(4) 設備計画

①電気設備の基本的な考え方

[電気設備の基本方針]

- ・ 安全性、信頼性が高く、機器更新やメンテナンスが容易な設備計画とし、災害対策を考慮した計画とする。

[安全性・メンテナンス性の確保]

- ・ 受変電設備は、メンテナンス性を考慮し、屋外キュービクル型とする。
- ・ 分電盤は、各階の専用シャフト（EPS）内に設置し、動力盤・専用電源盤は、機械室や準備室等に設置し、安全で維持管理しやすい計画とする。
- ・ 敷地内の適切な位置に防犯カメラを設置し、管理諸室からのモニターによる監視と録画装置を設置する。
- ・ ICT 環境の充実のため、学校全体の情報通信設備網用の経路を確保する。

[省エネルギー・省資源化]

- ・ イニシャルコストとランニングコストを両立できる経済性のあるシステムを導入する。
- ・ 照明器具は、すべて LED 器具を基本とする。
- ・ 照明の点滅制御は、一般スイッチ・リモコンスイッチ・センサー・タイマー等、使用する室・スペースに適した制御方法を選択し、省エネルギー性と機能性を兼ね備えた計画とする。
- ・ 電線やケーブルは、環境に配慮した低負荷材料（エコ電線・エコケーブル）を採用する。
- ・ 太陽光発電設備を設置し、再生可能エネルギーを有効活用するとともに、環境教育及び災害時の対応が円滑となる計画とする。

[その他]

- ・ 改修工程を踏まえて、無駄のない電源供給を計画する。

②機械設備の基本的な考え方

[機械設備の基本方針]

- ・ 小学校としての運営管理、教育内容、日常生活に求められる機能の確保や、快適性・安全性・利便性・メンテナンス性を確保し、災害を考慮した計画とする。

[快適性と必要機能の確保]

- ・ 校舎は、室機能に整合した個別空調方式を基本とする。
- ・ 体育館に居住域を主とした冷暖房設備を設置する。
- ・ 室機能に応じた換気システム・水・ガスを計画する。
- ・ 機械換気の採用や自動水栓の採用等、感染症防止対策を図る。
- ・ 災害対応（地震・水害等）や衛生面を考慮した給水方式を検討する。

[環境負荷低減を図る計画]

- ・ エネルギーの節約 ： 個別空調、全熱交換器、節水型器具
- ・ 設備システム効率向上： 高効率型機器の採用、配管距離の短縮
- ・ 資源の利用 ： 雨水利用の検討

[維持管理しやすい計画]

- ・ メンテナンスしやすい機器の選定や更新性に優れた汎用品の採用、将来の設備増設スペースを確保できる計画とする。
- ・ 機器発停、機器運転状況、機器故障警報の集中運転や水・ガス量等のデータ管理等、各機器の運転監視が行いやすい計画とする。

[その他]

- ・ 給水引込みや汚水の公設枳は既存の状況を確認の上、再使用できない場合は、新規設置を計画する。

（５）防犯・安全計画及び防災計画

①防犯・安全計画

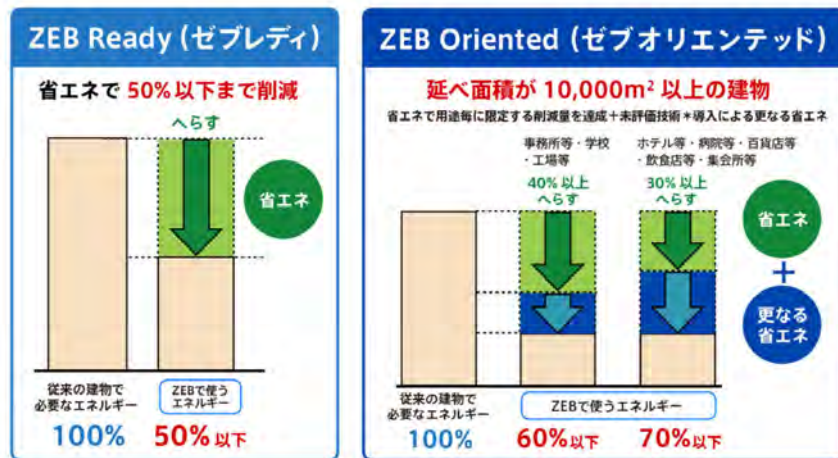
- ・ 日常的な学校運営における防犯・事故防止対策を図るため、死角や隠れ場所が少なくなるよう計画する。
- ・ 地域開放時におけるセキュリティ等に配慮した計画とする。

②防災計画

- ・ 指定避難所としての役割を果たす防災機能・避難所機能を確保する。
- ・ マンホールトイレの設置を検討する。
- ・ 防災備蓄倉庫は、資材の搬入や利用時の移動がしやすい位置に計画する。
- ・ 建物躯体や非構造部材の耐震化を行うとともに、電気、ガス、水道等のインフラ設備について、災害時の使用や早期復旧することができるよう耐震性等を考慮した計画とする。
- ・ 太陽光発電は、停電時の避難場所を考慮し、自立運転コンセントを昇降口・体育館等に設置することを検討する。

（６）環境配慮計画

- ・ ZEB 認証の取得を前提に計画する。（ZEB Ready（10,000 m²以上の建物は ZEB Oriented）基準以上とする。）
- ・ 環境教育につながるよう太陽光発電設備や、緑のカーテン等、環境教材となる設備を計画する。



【出典：環境省 ZEB の定義より】

（７）長寿命化計画

- ・ 仕上材について、更新回数を抑えるべく、原則 30 年以上の耐久性を有する材料の選定を基本とする。防水や塗装等の耐久年数の短い材料に対しては、更新時の施設運用に対する影響を極力低減するために、使用部位を選別し更新作業スペースを確保する。

(8) 地域連携・協働

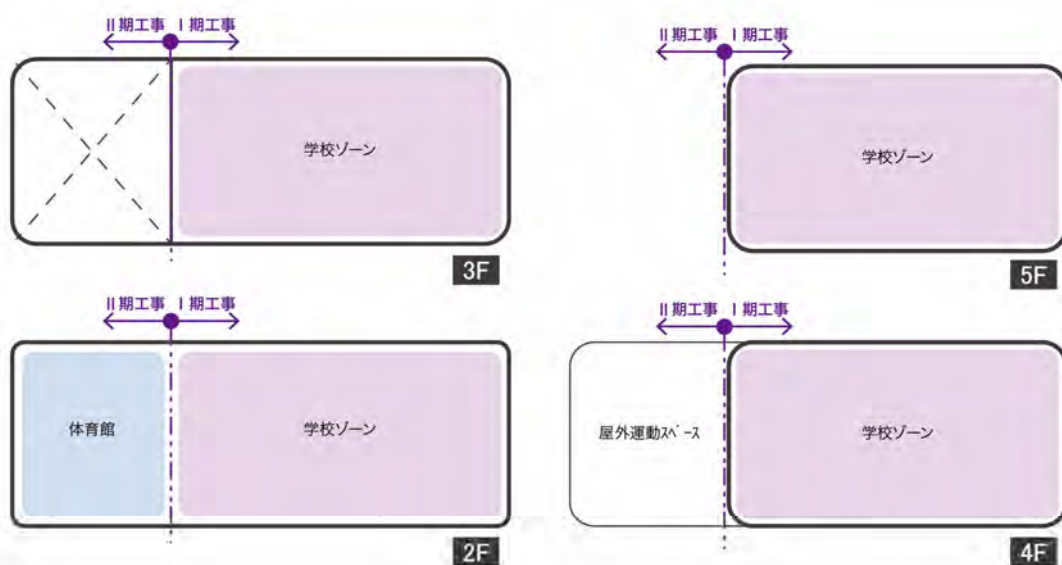
- ・地域とともに歩んできた学校の歴史を未来に継承する展示空間等を計画する。
- ・地域コミュニティの拠点や活性化につなげるため、可能な限り地域に開放するよう検討する。
- ・地域連携等で使用する部屋は、外部からアクセスしやすく、また子どもたちの見守りができるような位置に計画する。

(9) 工事中の配慮

- ・工事車両と児童の登下校の動線を分離するなど、工事期間中の安全な学校運営に配慮する。
- ・工事に影響のない範囲を仮校庭として整備するなど、子どもたちの遊び場の確保に配慮する。
- ・学校運営や周辺地域への影響を考慮し、工事中の騒音・振動等が極力少なくなるような工事計画とする。

第 5 章 配置の検討

A 案：敷地南側配置（段階整備）案

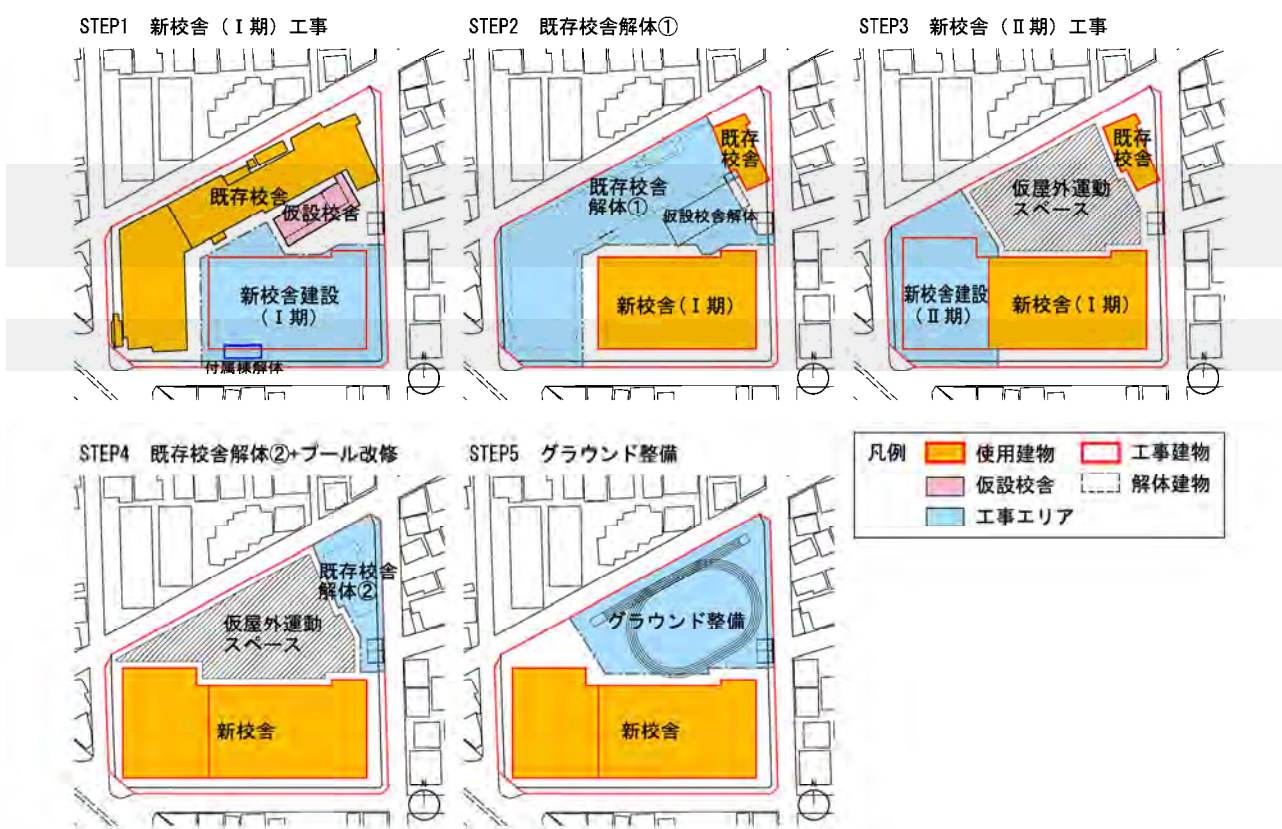


＜考え方＞

- ・敷地南側に新校舎、北側に校庭を配置。
- ・段階的に整備を行うこととし、既存校舎の西側を先に解体する。
- ・Ⅰ期工事にて必要な普通教室数を確保する。

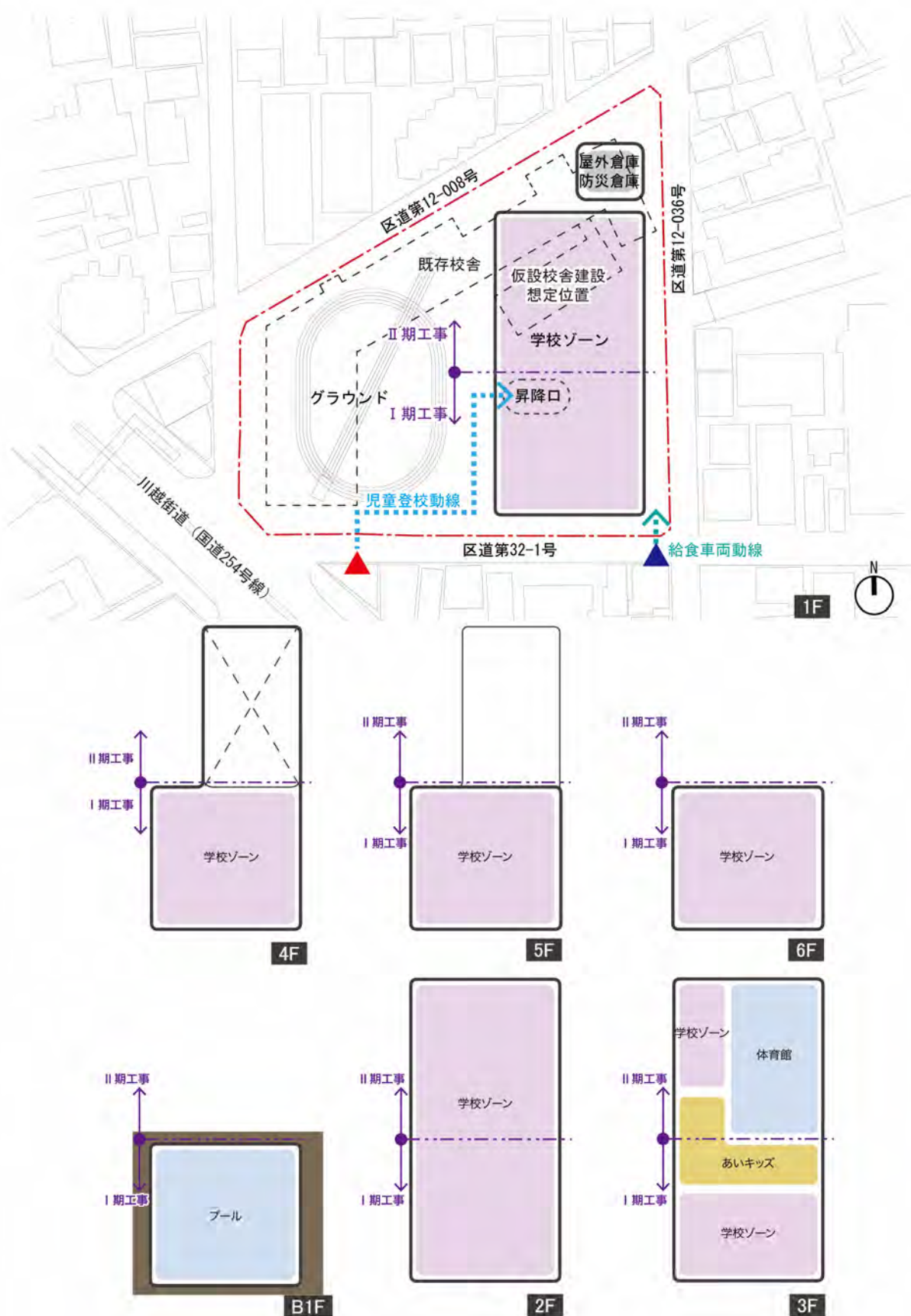
＜整備手順＞

- STEP 1 現グラウンド内にてⅠ期工事
- STEP 2 既存校舎の西側部分（体育館・職員室等）を解体
- STEP 3 解体部分にてⅡ期工事
- STEP 4 残りの既存校舎を解体
- STEP 5 解体部分にて校庭を整備



メリット	・他案と比較して低層のため、近隣への圧迫感が軽減される ・日常的な児童の縦移動の負担が軽減される ・Ⅱ期の屋上を運動スペースとして利用できる ・新校舎の使用開始時期が一番早い
デメリット	・あいキッズはⅡ期工事となるため、Ⅰ期完成後は既存あいキッズ棟を利用しながらⅡ期工事を行う必要がある ・工事中に体育館がない時期が生じるため、対策が必要となる
取り入れた意見	・ピロティ空間 ・屋上運動スペース ・駅に近い門

B 案：敷地東側配置（段階整備）案



＜考え方＞

- ・敷地東側に新校舎、西側に校庭を配置。
- ・段階的に整備を行うこととし、既存校舎の東側を先に解体する。
- ・Ⅰ期工事にて必要な普通教室数を確保する。

＜整備手順＞

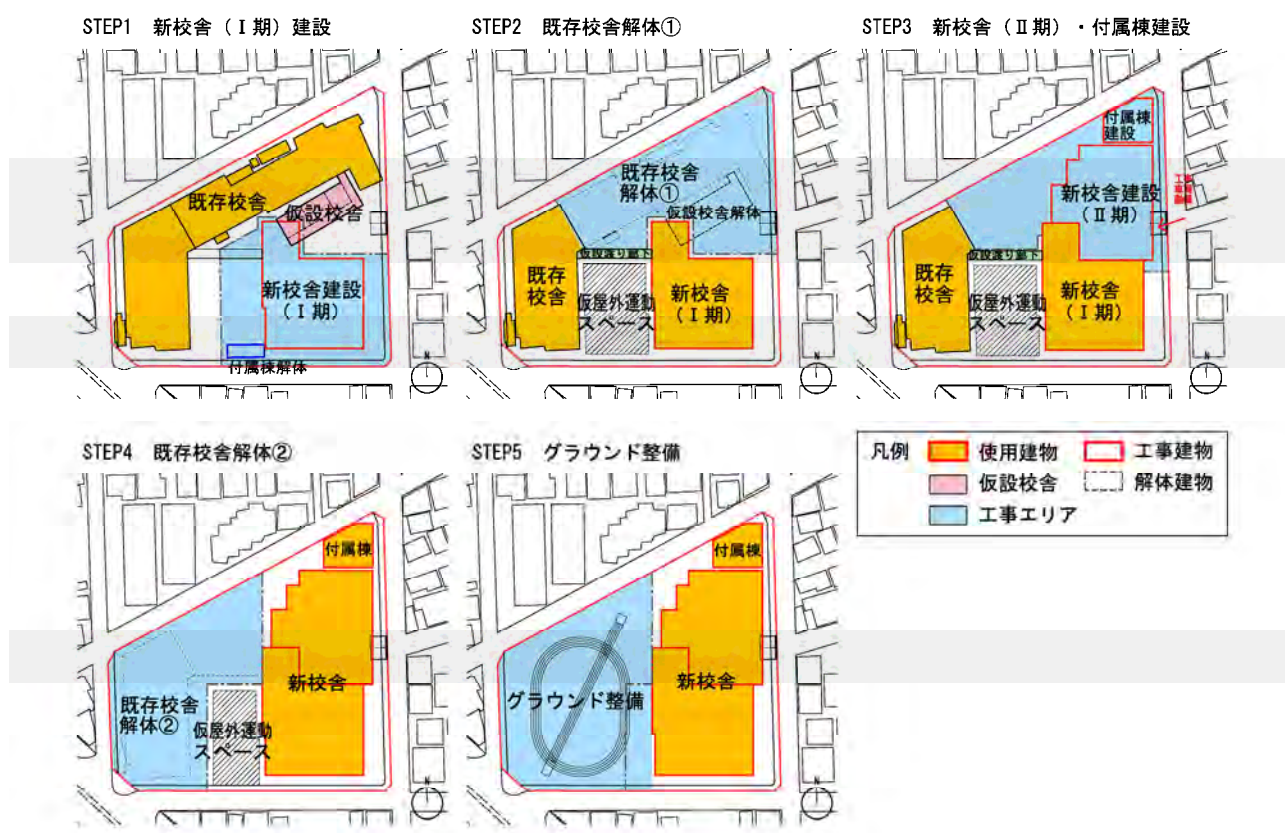
STEP 1 現グラウンド内にてⅠ期工事

STEP 2 既存校舎の東側部分（普通教室・プール等）を解体

STEP 3 解体部分にてⅡ期工事

STEP 4 残りの既存校舎を解体

STEP 5 解体部分にて校庭を整備



メリット	・ 体育館・プールが常に敷地内にある（既存または新設） ・ グラウンド形状が比較的整形で確保できる
デメリット	・ 工期が3案中、最長となる。 ・ 日常的な児童の縦移動の負担が大きい ・ 地下利用のため、工事費や施工性の負担が大きい ・ 法律上、北側に高い建物を建てられないため、北側は高さを抑える必要がある
取り入れた意見	・ 地下プール

C 案：敷地南側配置（I 期整備）案



<考え方>

- ・敷地南側に新校舎、北側に校庭を配置。
- ・新校舎はⅠ期で整備を行うこととし、新校舎完成後に既存校舎を全て解体する。
- ・Ⅰ期工事にて必要な全ての教室・居室を確保する。

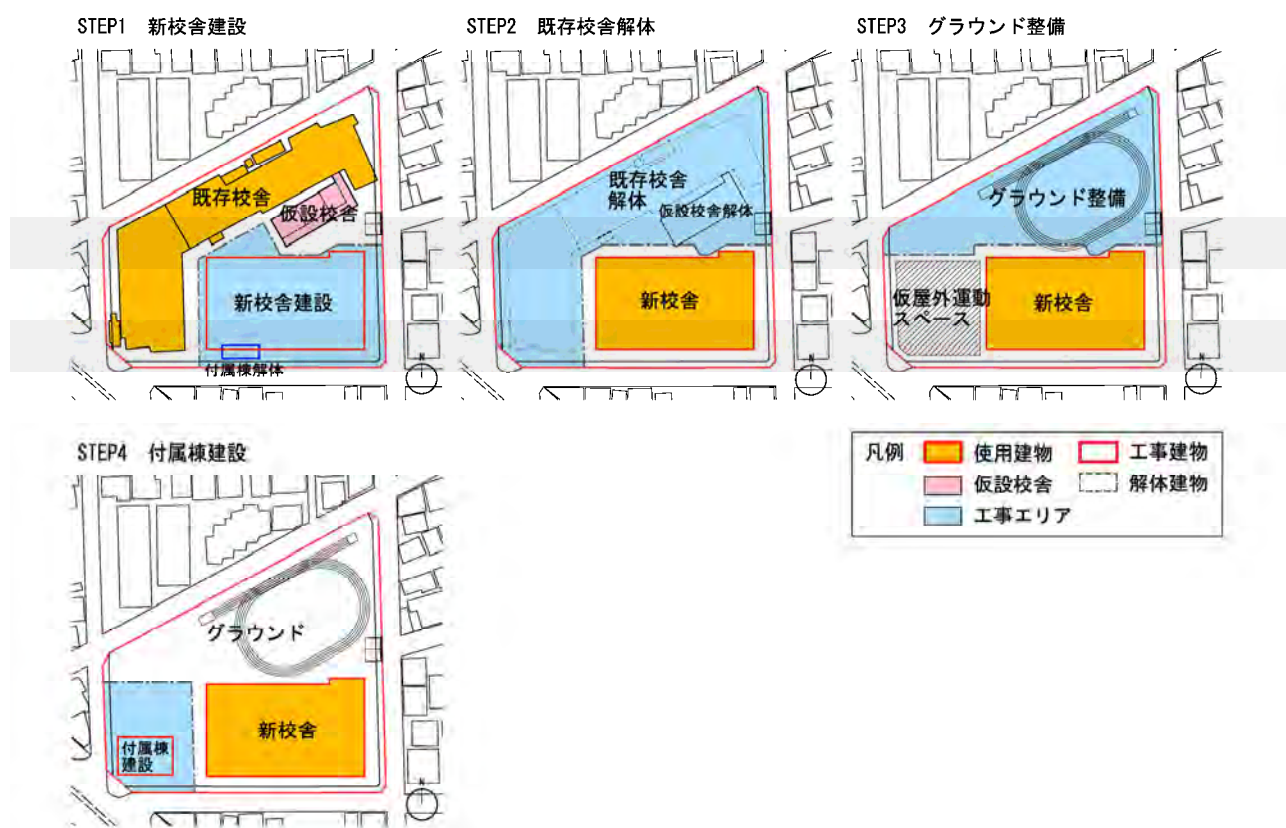
<整備手順>

STEP 1 現グラウンド内にてⅠ期工事

STEP 2 既存校舎を解体

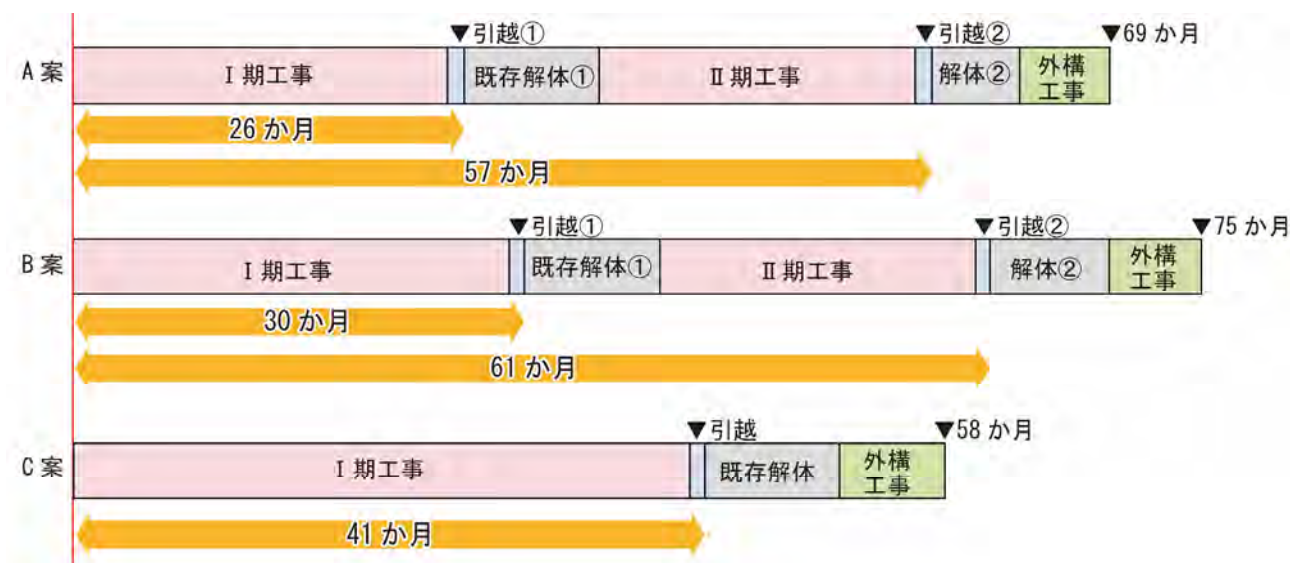
STEP 3 解体部分にて校庭を整備

STEP 4 付属棟工事



メリット	・工期が3案中、最短となる ・コンパクトな建物配置により、屋外環境が最大限に確保可能 ・既存校舎の解体工事が一度で完了する
デメリット	・7階建てとなるため、近隣への圧迫感がある（法律上は問題なし） ・日常的な児童の縦移動の負担が大きい ・地下体育館の上部に部屋を設けるため、構造上の負担が大きい
取り入れた意見	・地下体育館 ・コンパクトな配置 ・駅に近い門

工事期間の検討



- ・ A 案・B 案については、新築工事・解体工事ともに工事がⅡ期に渡るため、全体的な工期は長期化するが、Ⅰ期完成後は新校舎の一部を供用開始することが可能となる。
- ・ C 案については、新築工事・解体工事ともに工事がⅠ期で完了するため、全体的な工期は短縮されるが、Ⅰ期完成の工期が長期に渡るため、新校舎の供用開始が他案と比較して最も遅い工事工程となることが予想される。

各配置案の比較

決定案

配置計画比較表	A案 敷地南側配置（段階整備）	B案 敷地東側配置（段階整備）	C案 敷地南側配置（段階整備なし）
校舎配置イメージ			
階数	地上5階程度	地下1階 地上6階程度	地下1階 地上7階程度
移動の負担	中	大	大
校庭の大きさ・広場	中+屋上広場を設置可能	中	大
学校ゾーンの引越	2年2か月	2年6か月 ※既存校舎を一部利用	3年5か月
全体工期	5年9か月	6年3か月	4年10か月
近隣への圧迫感	小	中	大
コスト	中	やや高め	高め

※詳細は今後の設計にて検討します。

- ・ 改築検討会にて検討した結果、A 案の配置で検討を進めることとする。
- ・ 設計段階において、更なる検討が必要な計画条件に係る項目を次頁に示す。

① 建替え計画

- ・ I 期・II 期工事中は、既存あいキッズを使いながらの工事となるため、各動線の配慮が必要となる。
- ・ 新校舎建設までに児童数が増加した場合、仮設校舎の建設が必要となるが、仮設校舎を建てるスペースが限定されるため、校舎の配置は柔軟に対応する必要がある。

② 体育館

- ・ 工事中に体育館がない時期が生じるため、対策が必要となる。

第 6 章 活動經過

6-1 報告書作成までの活動経過

基本構想・基本計画報告書策定にあたり、地域特性の把握を目的とした児童、保護者、教職員、地域へのアンケートやワークショップを実施してきた。これまでの主な活動経過を下記に示す。

開催回	開催日	会場	検討・確認内容
改築検討会			
第 1 回	令和 6 年 7 月 12 日	第六小学校	・ 改築検討会の設置について ・ 学校改築の概要について ・ 意見交換 ① 地域から見た板六小らしさ、板六小の校風について継承したいところ ② 現状の学校について良いところ
第 2 回	令和 6 年 9 月 4 日	第六小学校	・ 第 1 回改築検討会の報告 ・ 第 1 回ワークショップの報告 ・ 板橋第十小学校の視察報告 ・ コンセプト案についての意見交換
第 3 回	令和 6 年 11 月 26 日	第六小学校	・ 平面ゾーニング検討案についての意見交換 ・ コンセプト案についての意見交換 ・ アンケート調査の報告 ・ 第 2 回ワークショップの報告
第 4 回	令和 6 年 12 月 16 日	板橋区立文化会館	・ 平面ゾーニング検討案についての意見交換
第 5 回	令和 7 年 1 月 23 日	第六小学校	・ 検討の振り返り
ワークショップ			
第 1 回	令和 6 年 7 月 30 日	第六小学校	・ テーマ①どんな学校をつくりたいか考えよう ・ テーマ②学校の大きさはどうなる？ ※対象：改築検討委員、教職員、PTA 推薦者
第 2 回	令和 6 年 10 月 15 日	第六小学校	・ テーマ 板六小にあったらいいな、と思う写真を選んで理由を考えてみよう ※対象：4 年生児童
第 3 回	令和 6 年 12 月 18 日	第六小学校	・ テーマ①地域とともにある板六小とは ・ テーマ②地域に開かれた部屋を考える ※対象：改築検討委員
その他			
第 1 回	令和 6 年 8 月 28 日	視察研修	・ 板橋第十小学校

今後も、設計業務等の段階ごとの節目をとらえ、できる限り継続的に関係者との意見交換、意見聴取を行い、その検討結果を施設設計に反映させるとともに、意見を伺った関係者にフィードバックし、かつ広く周知していくことが重要である。

1 板橋第六小学校の改築に関する地域からの意見

改築検討会やワークショップ、アンケートから得られた地域の意見を以下にまとめる。

No.	分類①	分類②	意見・要望	検討時期
1	校舎	施設	日常の上下移動の負担について、配慮が必要である。	基本構想・計画
2	校舎	施設	【継承したいところ/現状の良いところ】日が当たるところ	基本構想・計画
3	校舎	施設	武蔵野台地のため、災害に強い	基本設計
4	校舎	施設	大きな窓がある	基本設計
5	校舎	施設	全体が見渡せる。見通しの良い校舎。	基本設計
6	校舎	施設	入口がわかる一学校の施設構成がわかりやすい	基本設計
7	校舎	施設	木の温もりのある居心地の良い学校	実施設計
8	校舎	施設	Wi-Fi設置をはじめGIGAスクール構想に対応する等次世代の学校	実施設計
9	校舎	屋上	屋上も有効活用してほしい。（運動スペース、緑化していきのスペース、屋上に展望台）	基本設計
10	校舎	多目的スペース	学年ごとに集まれる広さがほしい。（学年で話す。授業する時に）	基本設計
11	校舎	多目的スペース	発表ブースがほしい	基本設計
12	校舎	多目的スペース・居場所の創出	校舎内には多目的に活用できる大きなスペース・児童が一人で落ち着ける小さなスペース両方があることが良いと考える	基本設計
13	校舎	居場所の創出	子どもだけの小さな場所	基本設計
14	校舎	居場所の創出	不登校児童の居場所（普通教室とは別室で安心して過ごせる空間）	基本設計
15	校舎	和室	和室や襖など従来の生活場を体験させたい	基本設計
16	校舎	和室	かるたや華道教室、寝そべられる場所などのリラックスできる環境にしてほしい	基本設計
17	校舎	歴史	大山の歴史館	基本設計
18	校舎	歴史	卒業生におじいちゃん、おばあちゃんがいる。長い歴史がある。	基本設計
19	校舎	廊下	廊下にあるベンチ	基本設計
20	校舎	安全	死角のない学校にしてほしい。一方で秘密基地もほしい。	基本設計
21	校舎	安全	地域に広く開かれた学校であってほしい思いと「安全」との両立	基本設計
22	校舎	安全	不審者対策・防犯対策	基本設計 実施設計
23	校舎	環境	太陽光発電の採り入れ（エコ）	実施設計
24	校舎	学校運営	見守る関係性は必要	基本設計
25	校舎	ユニバーサルデザイン	バリアフリーが充実されている	基本設計 実施設計
26	校舎	ユニバーサルデザイン	初めて訪れた人が分かりやすい学校がよい。	基本設計 実施設計
27	グラウンド	人工芝	校庭の人工芝が良い	基本設計
28	グラウンド	防球ネット	ボールを思い切り使える校庭	実施設計

No.	分類①	分類②	意見・要望	検討時期
29	グラウンド	設備・仕様	火を使うイベント（キャンプファイヤー、焼き芋、花火など）をしたい。	基本構想・計画 基本設計
30	グラウンド	設備・仕様	マンホールトイレ、かまどベンチ、炊き出し	実施設計
31	グラウンド	遊具	いろんな遊具	実施設計
32	グラウンド	植栽	緑のカーテンを常設	実施設計
33	グラウンド	植栽・ビオトープ	（植物・昆虫）生き物と触れ合える。緑が多い学校。ビオトープなどの環境教育が取り組める学校。	実施設計
34	体育館	広さ	災害時にどのくらいのキャパが利用できるのか。	基本設計
35	体育館	設備・仕様	多目的対応可能な体育館（講堂、ホール、舞台）	実施設計
36	プール	位置	屋内プール（将来的な地域開放・熱中症対策）	基本構想・計画
37	プール	視線対策	屋上プールだと周辺の高層建物から見られてしまう可能性がある。（視認対策）	基本構想・計画
38	プール	温水	公立中学校で水泳部がある学校が少ない。今回の計画で、近隣の小中学校が使える温水プールができれば、部活動の選択肢を増やせる可能性がある。	基本構想・計画
39	家庭科室	位置	家庭科室の地域使用（子供食堂、おまつり、イベント、防災訓練）	基本設計
40	地域開放・連携	ゾーニング	空き教室を地域開放しやすいつくり方にしてほしい。	基本設計
41	地域開放・連携	ゾーニング	教室・プール・図書館・多目的ホールを地域開放してほしい。（将来も含めて）	基本設計
42	地域開放・連携	動線	履き替え無しで校舎内に入出りできるように（一足制）	基本設計
43	地域開放・連携	動線	アクセスしやすい門	基本設計 実施設計
44	地域開放・連携	動線	地域開放ゾーンに外から直接出入りできる。気軽に利用できる位置	基本設計
45	地域開放・連携	広場	歩道や広場の設置	実施設計
46	地域開放・連携	部屋・スペース	防災備蓄倉庫は学校敷地内に入らなくても使える場所にほしい	基本設計
47	地域開放・連携	部屋・スペース	会議室、町会行事、投票所等、多目的に利用できるスペースがほしい	基本設計
48	地域開放・連携	駐輪場	地域開放ゾーンに駐輪場の確保	基本設計
49	地域開放・連携	設備・仕様	屋外空間に水飲み場・トイレ	基本設計
50	地域開放・連携	設備・仕様	ボールの飛び出し防止	実施設計
51	地域開放・連携	学校運営	地域の商店街やハッピーロードとの連携 地域の応援が多い、地域に根ざした学校	基本構想・計画
52	地域開放・連携	学校運営	学校エリアから地域エリアが見えるスペースがほしい	基本設計 実施設計
53	地域開放・連携	ユニバーサルデザイン	地域開放ゾーンに授乳室やバリアフリー対策	基本設計
54	地域開放・連携	防災ほか	防災や防犯の拠点となる学校	基本設計
55	その他	工事	新校舎の竣工が、開校100周年記念に間に合うとよい	基本設計 実施設計
56	その他	学校運営	「経験できる」体験格差を感じない学校	基本構想・計画

2 検討会・ワークショップの各回の概要

(1) 第1回改築検討会

「地域から見た板六小らしさ、板六小の校風について継承したいところ」「現状の学校について良いところ」の2つをテーマに意見聴取を行った。

意見交換 「新たな学校をつくるにあたって大事だと考えていることの共有／コンセプトづくりの手がかりとなる言葉の抽出」 2024年7月12日

テーマ①	地域から見た板六小らしさ、板六小の校風について継承したいところ		テーマ②	現状の学校について良いところ（例：のびのびとした児童の活動、〇〇は良い空間など）	
地域 ・土日は校庭が地域の子どもの遊び場となるのがよい ・地域の商店街や町会に密着した板六小 ・ハッピーロードとの連携 ・地域の応援が多い板六小 ・地域に根ざした学校 ・町が近い ・商店街が近い ・地域産業 ・地域との交流 ・駅に近い、店に近い、バス・大きな道路に近い（便利） ・建替えに反対している意見が少ない ・イベントが熱い（盛り上がる） →駅や商店街に近く、立地の良さや地域密着・連携が魅力 施設 ・日が当たる ・東側が校庭 ・人工芝で水はけ良 ・プールが屋上 ・あいキッズが校内にある ・入口が分かりやすい ・植物が少ない板六小 ・あいさつをする子が多い →校舎位置変更による正門・校庭位置の検討が必要 歴史 ・渋沢栄一（ゆかりがある） ・卒業生におじいちゃん、おばあちゃん、という歴史がある →令和15年度に100周年を迎える長い歴史 安全 ・武蔵台地（災害に強い）					
その他	現状の学校について良くないところ				
地域 ・地域の人気軽に使えない ・地域に開かれていない ・地域に遊び場が少ない ・地域で知らない人も →地域にどこまで開放するかが課題 施設 ・人工芝△ ・人工芝が家に沢山入ってくる ・古い（校舎が） ・屋上プールだと周辺の高層建物から見られてしまう懸念あり（子どもたちの安全） ・障がい者が通えない板六小 ・動物がいない板六小 ・図書室がわかりにくい →ユニバーサルデザインが必須 人工芝の仕様や屋上プールの配慮が必要 安全 ・地域に広く開かれた学校であってほしい思いと「安全」との両立の難しさ？ ・地域に開放する場合、学校の安全面はどのように対応するか →地域開放と安心・安全な施設の両立 避難所 ・災害時にどのくらいのキャパが利用できるのか →避難所としての機能・規模設定（アリーナのみ？） その他（要望） ・屋内プールを併設した（中央区や港区のような）区の施設 ・体育館のような発表ブースが多くなるようなスペース ・地域連携で利用できる部屋 （1階にみんなが使えるようなスペースがほしい） ・隠れられる場所は子どもの事故に繋がるのでは ・初めて訪れた人が分かりやすい学校がよい ・20人くらい乗れるエレベーターがほしい（できれば2台以上）					

（２）第２回改築検討会

第１ワークショップの結果を振り返り、建物の整備方針について、意見聴取を行った。

【第１回ワークショップの振り返り】

敷地南配置（段階整備）案



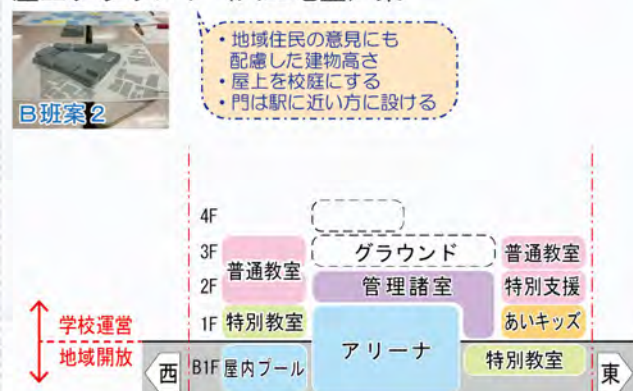
敷地南配置（Ⅰ期工事）案



敷地東配置（段階整備）案



屋上グラウンド（人工地盤）案



【建物の整備方針について】

- ・段階整備とⅠ期工事のどちらにしても、１００周年に間に合うように工事を進めてほしい。
- ・日常の上下移動の負担について、配慮が必要である。
- ・プールは暑さ対策のためにも、屋内化を検討してほしい。
- ・屋上プールの場合、周辺建物からの視線対策をしてほしい。
- ・公立中学校で水泳部がある学校が少ない。今回の計画で、近隣の小中学校が使える温水プールができれば、部活動の選択肢を増やせる可能性がある。

その他、様々な意見をいただきました。

(3) 第3・4回改築検討会

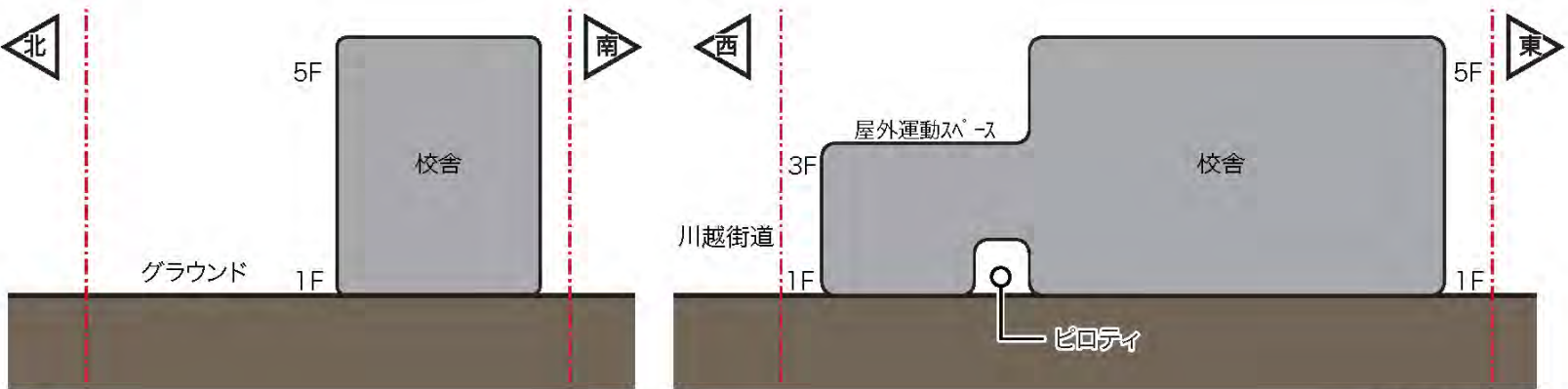
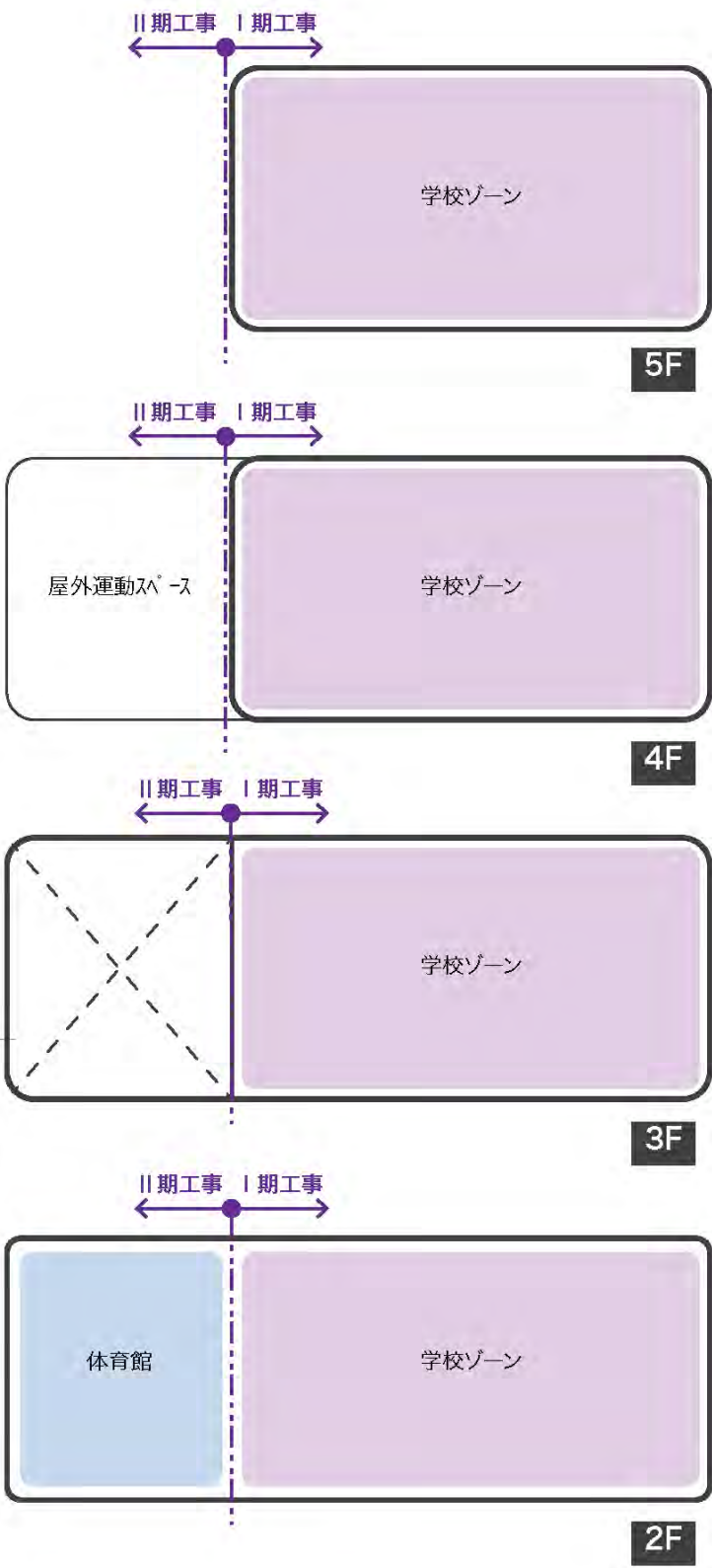
第1回ワークショップでの模型を使った建物の位置や大きさの検討を基に平面ゾーニング案を作成し、意見交換を行った。

[A案] 敷地南側配置（段階整備）案

敷地南側配置（段階整備）案 **A案**

※工期は概算です。設計内容により変更となる場合があります。

メリット	・他案と比較して低層のため、近隣への圧迫感軽減 ・日常的な児童の縦移動が少ない(2-5F:4フロア)ため、移動の負担が軽減される ・屋外倉庫が校舎内に含まれるため、別棟の屋外倉庫は不要になり、屋外空間が最大限確保できる ・ピロティにより、いち早く学校敷地内に入ることができる ・屋上を運動スペースとして利用できる
デメリット	・あいキッズはII期工事となるため、I期完成後は既存あいキッズ棟を利用しながら、II期工事を行う必要がある ・工事中に体育館がない時期が生じるため、対策が必要となる。
工期	69か月
取り入れた意見	・ピロティ ・屋上運動スペース ・駅に近い門



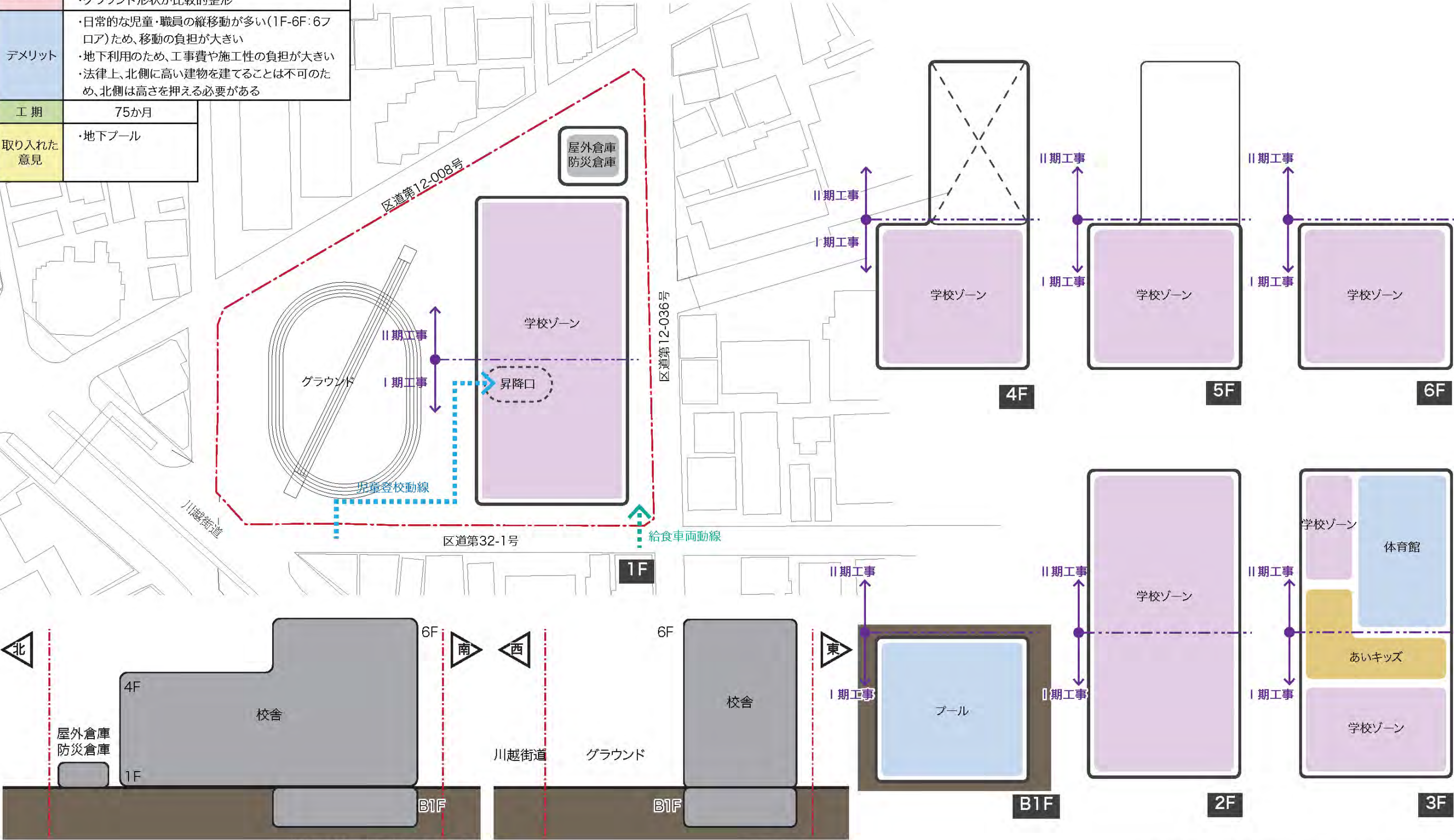
■断面イメージ

※地域連携室などの地域利用室は学校ゾーンに設けています。

敷地東側配置（段階整備）案 **B 案**

※工期は概算です。設計内容により変更となる場合があります。

メリット	・体育館・プールが常にある ・グラウンド形状が比較的整形
デメリット	・日常的な児童・職員の縦移動が多い(1F-6F:6フロア)ため、移動の負担が大きい ・地下利用のため、工事費や施工性の負担が大きい ・法律上、北側に高い建物を建てることは不可のため、北側は高さを押える必要がある
工期	75か月
取り入れた意見	・地下プール



※プールは屋上にもできる

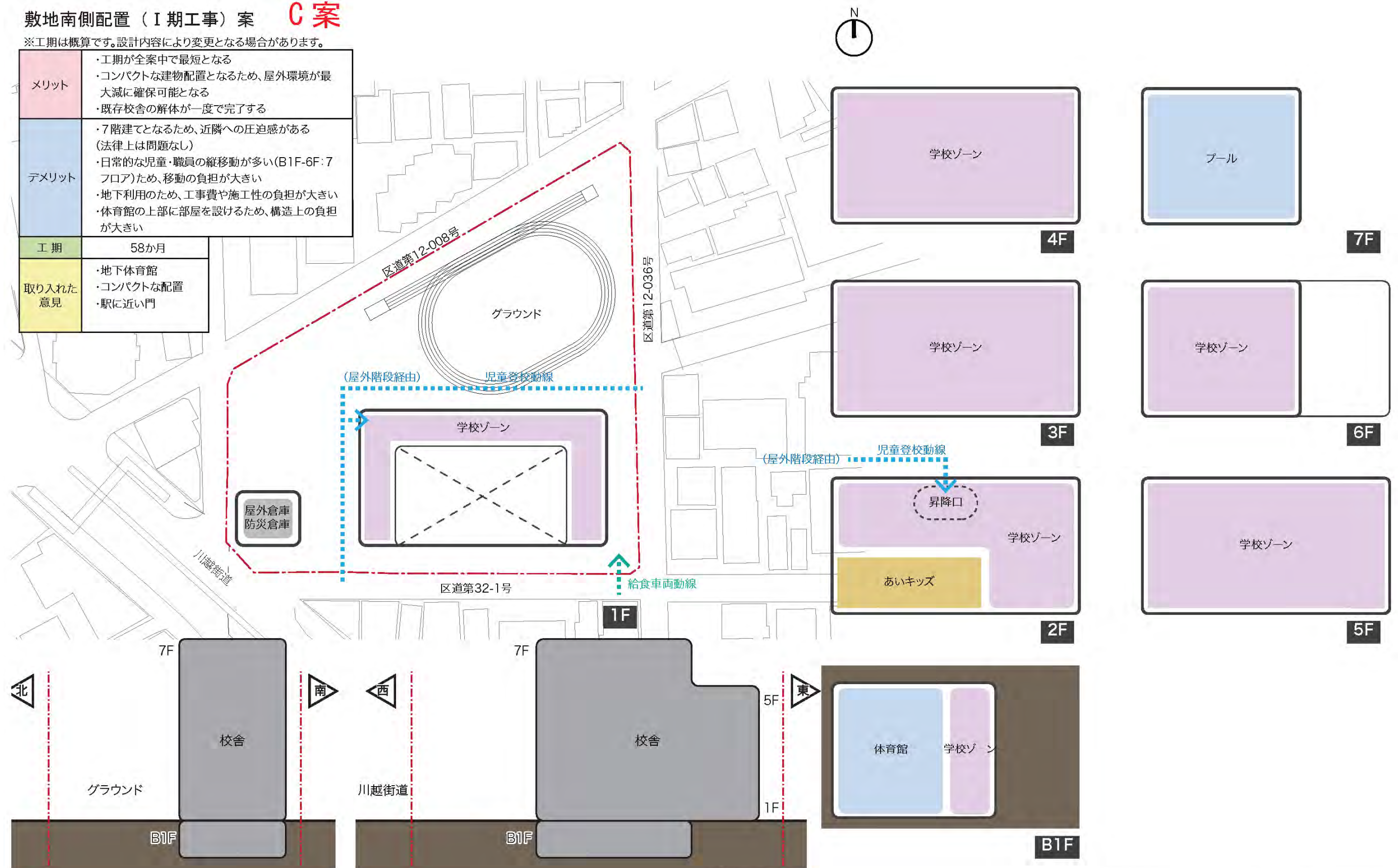
■断面イメージ

※地域連携室などの地域利用室は学校ゾーンに設けています。

敷地南側配置（Ⅰ期工事）案 C 案

※工期は概算です。設計内容により変更となる場合があります。

メリット	・工期が全案中で最短となる ・コンパクトな建物配置となるため、屋外環境が最大減に確保可能となる ・既存校舎の解体が一度で完了する
デメリット	・7階建てとなるため、近隣への圧迫感がある(法律上は問題なし) ・日常的な児童・職員の縦移動が多い(B1F-6F:7フロア)ため、移動の負担が大きい ・地下利用のため、工事費や施工性の負担が大きい ・体育館の上部に部屋を設けるため、構造上の負担が大きい
工期	58か月
取り入れた意見	・地下体育館 ・コンパクトな配置 ・駅に近い門



■断面イメージ

※地域連携室などの地域利用室は学校ゾーンに設けています。

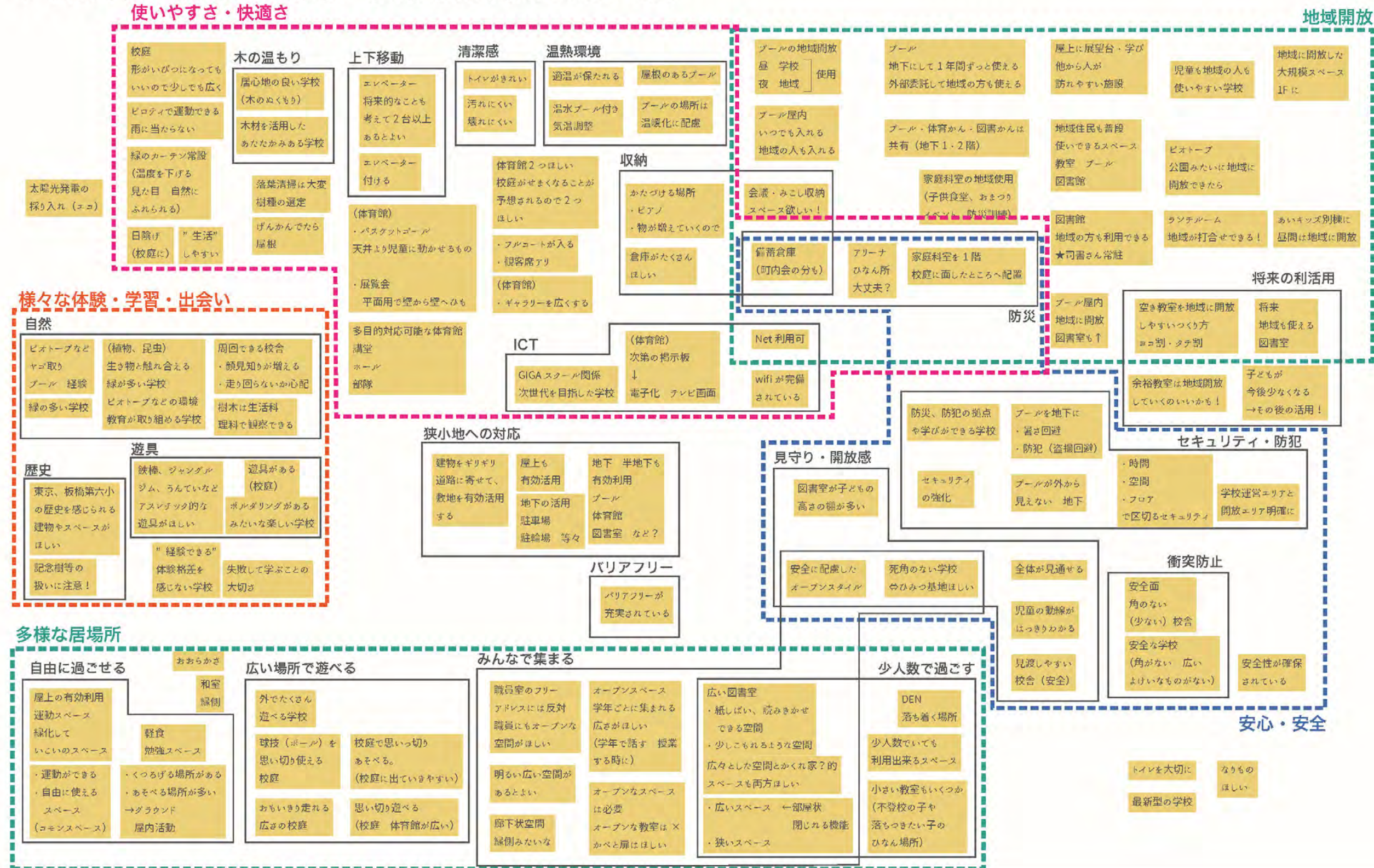
(4) 第1回ワークショップ

「どんな学校をつくりたいか考えよう」「学校の大きさはどうなる？」の2つをテーマにワークショップを行った。

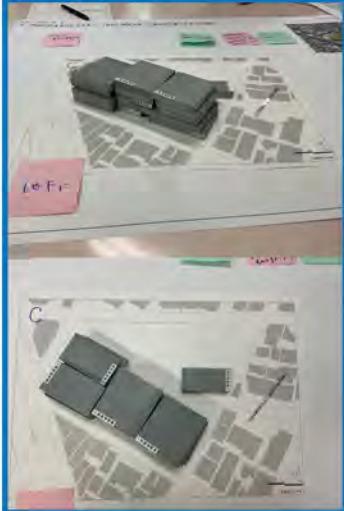
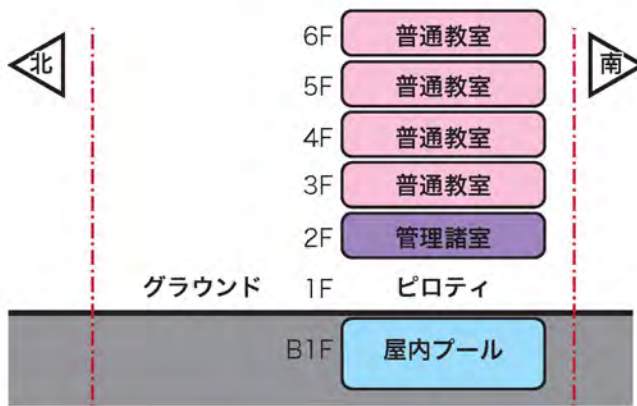
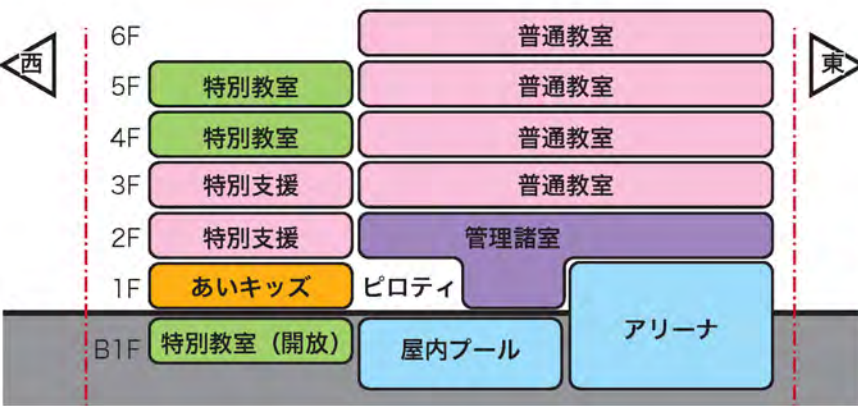
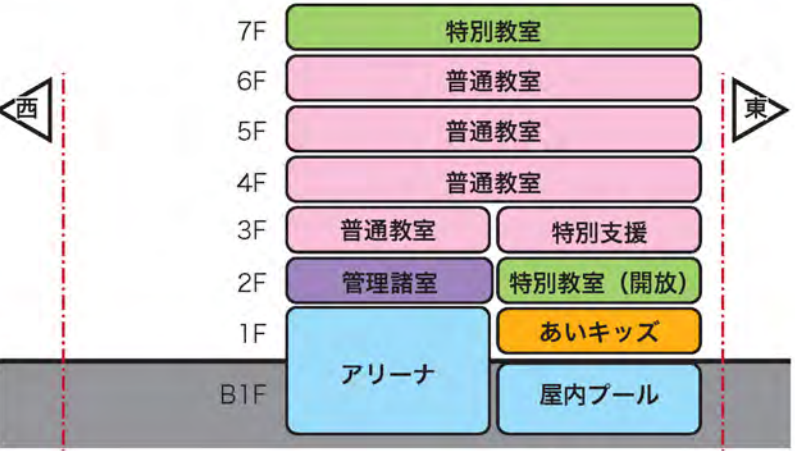
グループワーク【成果物まとめ】

2024年7月30日

1 どんな学校をつくりたいか考えよう！【目的】新しい学校のコンセプトづくり



2 学校の大きさはどうなる？ [目的] 模型を使った建物の位置や大きさの確認

	敷地南側配置案	敷地南側配置（工期短縮）案
グループワーク検討結果	C 班 案 1  - なるべく短い期間で - アリーナ地下に EV 必要 - 屋上を使用（庭 運動） - 仮設の体育館をつくる - アプローチは東側 - ピロティがあるといい - 体育館や多目的室など地域の方も使えるものは 1F・地下に - 校庭を広く！（体育館・プールは地下に） D 班 案  - 道路や近隣住宅から空が開けている - 高層でも視線が抜ける 1 階ピロティ - 周りの環境にも配慮！ - 段々の校舎 - 体育館は地下もしくは半地下	C 班 案 2  - なるべく短い期間で - アリーナ地下に EV 必要 - 屋上を使用（庭 運動） - 仮設の体育館をつくる - アプローチは東側 - ピロティがあるといい - 体育館や多目的室など地域の方も使えるものは 1F・地下に - 校庭を広く！（体育館・プールは地下に）
断面ソーシング検討案	  北 南 西 東 学校運営 地域開放	 西 東

2 学校の大きさはどうなる？ [目的] 模型を使った建物の位置や大きさの確認

	敷地東側配置案	屋上グラウンド（人工地盤）案
グループワーク検討結果	A 班案  - 子供と大人のアクセス 6 階建てでは、児童が階段上り下り大変 - 教員は屋外への出入りがある職員室は 2 階 - プール、あいきッズ、図書室地下に。地域の方がアクセスしやすい構成。 - ピロティの昇降口。雨の日も児童が傘を使いやすい環境に B 班案 1  - 門は駅に近い方がいい - 高層なら EV 必要 楽器運ぶの大変 - 校庭の形状は使いやすいのがいい - 地域住民（お隣さん）の意見にも配慮 - 幅の広い階段で校庭に避難訓練移動 - 屋上を校庭にする	B 班案 2  - 門は駅に近い方がいい - 高層なら EV 必要 楽器運ぶの大変 - 校庭の形状は使いやすいのがいい - 地域住民（お隣さん）の意見にも配慮 - 幅の広い階段で校庭に避難訓練移動 - 屋上を校庭にする
断面ゾーニング検討案	西 ← 東 6F 普通教室 5F 普通教室 4F 普通教室 3F 普通教室 2F 管理諸室 1F ピロティ グラウンド B1F 屋内プール 北 ← 南 6F 普通教室 5F 特別教室 4F 特別教室 3F 特別支援 2F 特別支援 1F あいきッズ B1F 特別教室（開放） 屋内プール アリーナ 学校運営 地域開放	東 ← 西 4F 普通教室 3F 普通教室 2F 特別支援 1F あいきッズ B1F 特別教室（開放） グラウンド 管理諸室 アリーナ 普通教室 普通教室 特別教室 屋内プール 学校運営 地域開放

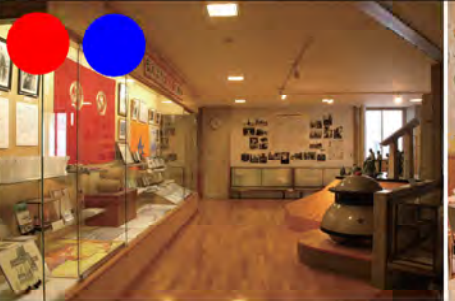
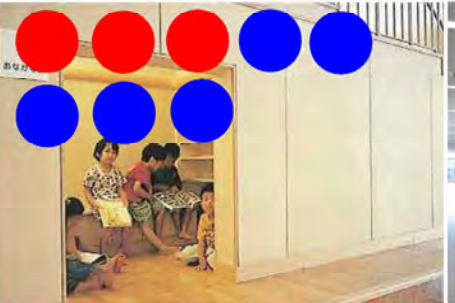
(5) 第2回ワークショップ (対象: 4年生児童)

「板六小にあったらいいな、と思う写真を選んで理由を考えてみよう」をテーマにワークショップを行った。

各写真の●印は、グループ発表で取り上げられた得票数を表す。なお、クラス別に赤と青で色分けを行っている。

児童ワークショップ 「板六小にこんな場所があったらいいなと思う写真を最大3枚選んで、理由を考えてみよう！」

2024年10月15日

					
1: 床に座れる	2: 本に囲まれた場所	3: いろんな家具	4: 大きな窓がある	5: 学校の歴史を飾れる	6: ランチルーム
					
7: 自由な活動場所	8: 集まれる場所	9: 壁に書ける	10: 発表できる場所	11: こどもだけの小さな場所	12: 廊下にあるベンチ
					
13: 運動もできる多目的スペース	14: 明るいトイレ	15: 色のついた階段	16: 教室のそばに先生の居場所	17: 外にあるステージ	18: 遊べる屋上
					
19: 雨にぬれない遊び場	20: 大きな花だん	21: しばふ広場	22: 地域の人との交流場所	23: いろんな遊具	24: 植物のあるビオトープ

※ビオトープ: 地域の生き物の生息場所 (池・草地・樹木など)

集計結果を以下に示す。

選択肢	1組票数	2組票数	学年票数	学年順位
1 床に座れる		1	1	11
2 本に囲まれた場所		1	1	11
3 いろんな家具			0	15
4 大きな窓がある	6		6	3
5 学校の歴史を飾れる	1	1	2	6
6 ランチルーム			0	15
7 自由な活動場所	1	1	2	6
8 集まれる場所			0	15
9 壁に書ける	2		2	6
10 発表できる場所			0	15
11 こどもだけの小さな場所	3	5	8	1
12 廊下にあるベンチ	3		3	5
13 運動もできる多目的スペース	1	1	2	6
14 明るいトイレ			0	15
15 色のついた階段			0	15
16 教室のそばに先生の居場所	1		1	11
17 外にあるステージ			0	15
18 遊べる屋上			0	15
19 雨にぬれない遊び場	1	1	2	6
20 大きな花だん			0	15
21 しばふ広場	1		1	11
22 地域の人との交流場所			0	15
23 いろんな遊具	1	6	7	2
24 植物のあるビオトープ	2	2	4	4

※各グループが発表した項目を集計

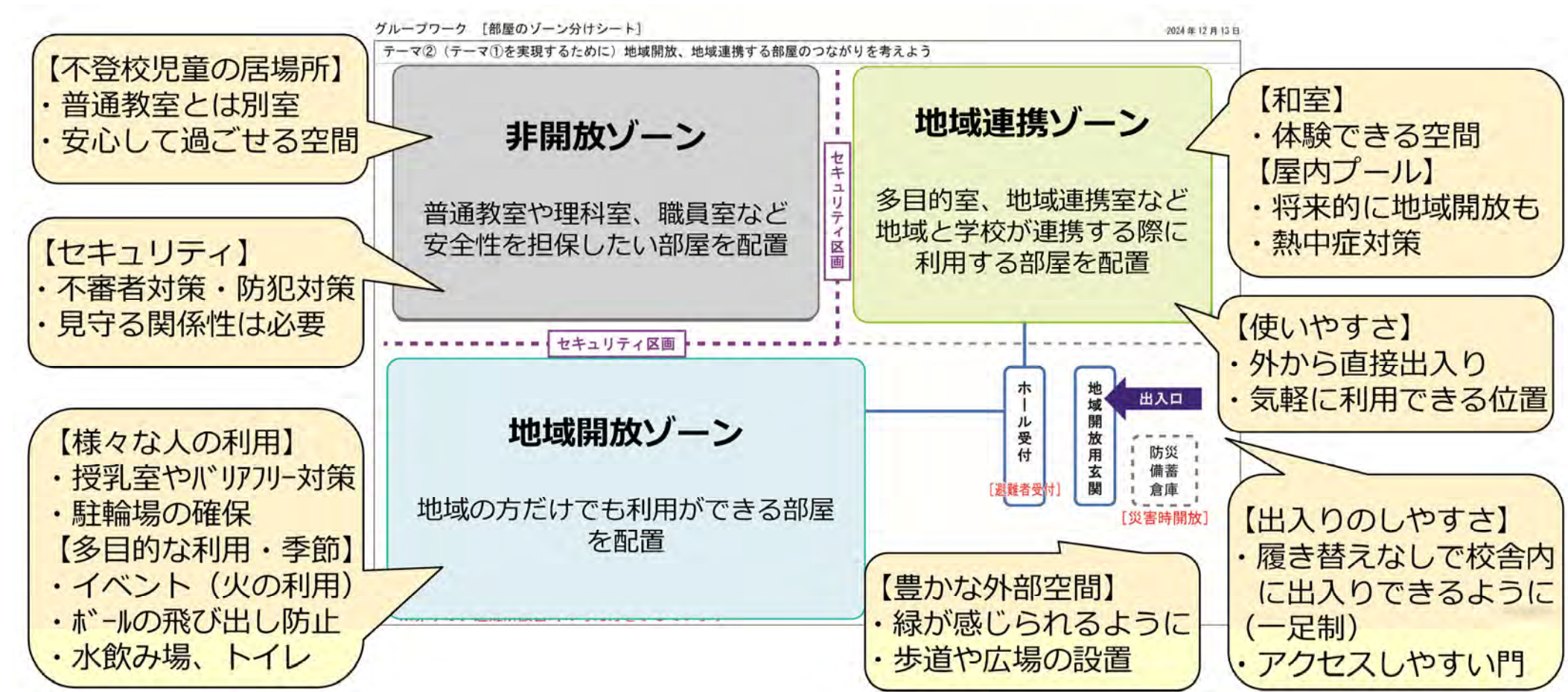
(6) 第3回ワークショップ

「地域とともにある板六小とは?」「地域に開かれた部屋を考える」の2つをテーマにワークショップを行った。以下に意見のまとめを示す。

テーマ1 地域とともにある板六小とは?

どこで	何をする	検討事項
グラウンド・屋外	・お祭り、盆踊り（未舗装の校庭で） ・火を使うイベント（キャンプファイヤー、焼き芋、花火など） ・マンホールトイレ、かまどベンチ、炊き出し	イベント時・災害時の利用方法 校庭や外構の舗装の工夫
地域開放・地域連携	・地域連携室・PTA室は分けて、それぞれが使いやすいように ・防災備蓄倉庫は学校敷地内に入らなくても使える場所へ ・会議室、町会行事、投票所等、多目的に利用できるスペース ・学校エリアから地域開放エリアが見えるスペース ・地域も利用可能な駐輪場	狭小敷地での工夫 セキュリティ区画の工夫 アクセスしやすい配置 多目的利用できるスペース 将来転用も含めた検討
体育館	・地域の防災訓練（大規模地震を想定した備え） ・災害時の一次宿泊所としての利用	災害時での利用のしやすさ
畳の部屋・縁側	・和室（たたみ）、ふすまなど従来の生活場面を体験させたい ・かるたや華道教室、寝そべりながらリラックスできる環境	しつらえ・素材感の工夫
その他	・大山の歴史資料館 ・ビオトープなど緑に触れ合える	地域と学校の歴史の継承 自然とのふれあい

テーマ2 地域に開かれた部屋を考える



(7) 板橋第十小学校視察研修

区内の新築小学校事例として、改築検討会で板橋第十小学校の視察を行った。各室に対する改築検討員からの意見を以下に示す。

項目	気づいた点など
教室について	ロッカーの場所。 ※理科室モニター
	もう少し広く欲しい。各室に手洗いが欲しい。
	準備室にエアコンが欲しい。
	掃除用具の納まり、児童・保護者参観の動線が取れていない。教師欄にホワイトボード仕上。EPS点検扉のホワイトボード仕上。
	特別教室の窓（廊下側）がとても大きく、中の様子がよく見えとてもよかった。全体的に横広。
	1年生の教室が外から出入りできることについて、登校したての児童にとっても良いと思った。
	エアコン、扇風機があり、勉強しやすいのでは。
	黒板の昇降が出来、良い。教室が横長。
	廊下から教室に入りにくい。参観等の時に入りにくそう。黒板の昇降。机の配置を円弧状にして工夫している教室も。（理科室）
	明るい。掲示物がたくさん貼れる。（ドアにも）
	備え付けの棚が動線をふさぐ×。スライドドア+暖簾かけあると○。机サイズ大きめ＝狭く感じる。建具開閉が雑で、修理が多い。
	理科室モニター2台。机の配置をずらしてモニターを見やすく。
オープンスペースについて	広い。実際の授業の様子など、学校公開で拝見したい。
	明るく広い○。
	アイデアがあり。
	オープンスペースの配置について、前面の教室が最も恩恵を受けている。
	学年に応じた使い方ができるスペースがあり、支援の必要な児童対応にも役立てると思う。
	子どもたちが自由に考え、学べる空間が良い。
	教室によって利便性が違う。
	各学年ごとの前にオープンスペース。学年ごとの使い方を工夫している。
	各学年にある（1年は何も置かない。6年は集中スペース≒カフェ）
廊下・階段について	3年生の和室的スペース○。
	エアコン。
	明るく広くて好ましい。エアコン欲しい。
	行き止まりを感じさせない設計が良かった。（回遊性）
	廊下幅はちょうど良いのでは。木目、Pタイルは階によって違うのが良い。
	教室との温度差が大きいので、健康的にどうなのか。
	色別にすることで、○色の階段で○○室と、1年生などに説明しやすい。
	ゆったりしている。
	明るい、広い。長机置くと子ども自ら使う。テラス○、採光○。
	アースカラーでも原色でも良いので、色遣いがもっと巧だと良いと思う。

トイレについて	数が多い方がよい。
	男女同色。ピクトサインが小さくて間違った。
	明るく、広い雰囲気であった。
	各階によって模様が違っていたのでよい。
	便器が床から浮いているタイプなので、掃除がしやすく清潔である。
	学年カラー、明るくきれい。
	明るくてきれい。
	扉ない○。姿見○。多機能トイレ○。
図書館について	広い。
	木の香りが大変よい。広さは十分か？フック必要？
	木のぬくもりが感じられる雰囲気でもよい。
	木をふんだんに使っていて暖かみを感じた。図書も思っていたより多く感じた。
	木材を多く使用していてあたたかみがある。
	配置の本棚が平行に並んだ配置で見渡しやすい。適度な個室間もあってよい。広々としたイメージもあってよい。木調が落ち着けてよい。
	木を沢山使っている。
	木◎。配置でこぼこ。 木に似せた造作や家具は必要ないと感じた。
体育館について	1階がよい。もっと広く多目的に利用したい。
	2階からも見る（ギャラリーに出れて）で、何かあった場合すぐに対応できると感じた。
	冷暖房があり、突起物がないのがよい。
	道具室が、しまっている遊具や体育器材が見やすく、片付けしやすそうに見える。
	1階。正方形に近い形。上階からのぞける箇所いくつもあり。
	狭く感じたが、十分なのかも。
	ギャラリー一周できる○。
	体育館を講堂としても用いる体裁ではなく、講堂を体育館として用いる前提の風格ある空間であってほしいと感じた。
職員室について	オープンスペースで明るい。
	副校長席は固定。職員、事務スペースは隣だと教員側はメリット。（連携） お金の管理があり、事務員は区切られていた方がよい。
	フリーアドレスとはいえ、席が固まる傾向あり。PCが有線のため、本当にフリーには座れない。 （無線なら・・・）
	荷物はロッカー棚、更衣室のロッカー。打合せスペースはフリーアドレスの一島に集まって学年の会議をする、または廊下のフリースペース。
	オープンな感じがよいかも。ただし自分の机も欲しいのでは。
	フリースペースだと余計な物が増えず、よいと思う。年度毎に教職員がそれぞれレイアウトをしたり、上手く利用しているそう。
	フリーアドレスの良い面、悪い面。個人の資料なども多いと思うが、身軽に移動できるの？感じるが、固定しないことで職員間の例えば苦手な人・・・対策には良いか？
	フリースペースはすごい。
	校長や副校長 職員室や事務 有線LANでフリーアドレス×。
	課題が多いようである。他区他校の事例も参考によりブラッシュアップしてほしい。

校庭（遊具） について	もう少し広いと良い。
	少ないと感じたが、逆に広く取れているようだった。支柱に違和感のない防具（ぶつかった際の防止）が付けられていて、素晴らしかった。
	校庭にスプリンクラーがあり、砂埃もたなくて良い。
	砂のところが良かった。雨を防げる、通路は良い。
	一部でも芝（天然、人工）を敷いた部分があると良いのではないかな。
その他（全体 を通して）	明るい、広い。デッドスペースのオペレーション。
	プールは屋上が良いか。日よけが欲しい。
	階段室4階、埃溜り。準備室で専科の先生は滞在長い、エアコンなし。階段下がクールダウンスペースとして活用されていた。カーテンの色（遮光カーテン）
	とても広々とした印象を受けた。窓も多く、明るい雰囲気とても良い。子どもの居場所：階段の下。
	無駄なスペースもよく使われている。
	音楽室は防音に配慮されている。楽器の収納場所が使用しにくそう。（狭い）
	音楽室、図工室などの準備室にもぜひエアコンを、との経験談あり。理科室内弧状に机の配置、黒板が見やすい工夫。
	オープンスペース以外にもデッドスペースを利用してこどもの居場所としても利用しているのが良い。
	防音が良い。コンセントもたくさんあったが、それでも足りないところがあった。
	準備室（専科）にもエアコンがあると良い。セントラル空調？ デッドスペースにGS委員長のデスク。子どものクールダウンスペース。
	プール広い○。（周りのスペース） 目隠し、日よけがあると良い△。
	あいキッズ広い、多目的トイレ、赤ちゃんの駅、避難スペース。
	木目調？

3 板橋第六小学校の改築に関するアンケート調査結果の概要

※自由記述の内容は、抜粋した意見を掲載している。その際、読みやすさや一貫性を保つため、一部表現を変更している場合がある。また、似たような内容の意見については、まとめて一つの項目として表現している。

【質問1】みなさんが「こどもたちの学びで、特に重要だと思うもの」を上位3つ選び、番号を記入してください。また、選んだ理由やご意見もお書きください。

- (1) グループワークなど様々な学習に対応できる教室
- (2) 十分な広さが確保された校庭や体育館などの運動設備
- (3) 地域と学校がともに活動できる場所
- (4) 地域の避難場所としての機能を備えたづくり
- (5) 学校の歴史・思い出を伝えていく場所
- (6) 防犯面に配慮したづくり
- (7) 学校図書室の充実（蔵書の充実、電子媒体化、ICT化の充実など）
- (8) 充実したICT教育が行えるづくり
- (9) 太陽光パネルや屋上緑化等の設置による環境に配慮したづくり
- (10) 異学年交流など多目的な活動が実施できる場所
- (11) 障がいのあるなしに関わらず、ともに学べるづくり
- (12) その他

学校づくりのうえで大切な観点について11項目を選定し、地域住民や児童の保護者らを対象に「こどもたちの学びで、特に重要だと思うもの」の上位3つをお聞きした。

1位に選んだ項目で一番多かったものは「十分な広さが確保された校庭や体育館などの運動設備」であった。



図1-1. 1位に選んだ項目の回答数

2位に選んだ項目で一番多かったものは「十分な広さが確保された校庭や体育館などの運動設備」であった。

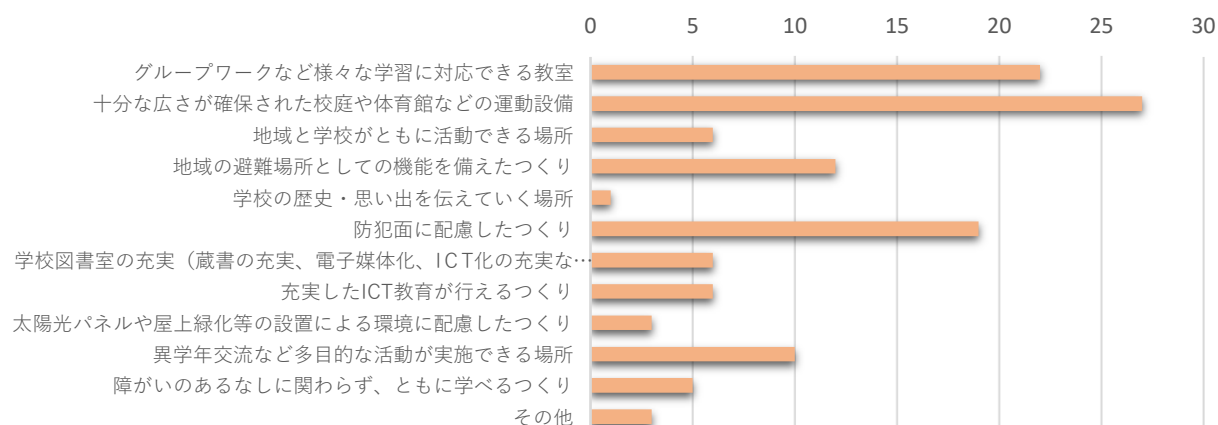


図1-2. 2位に選んだ項目の回答数

3位に選んだ項目で一番多かったものは「防犯面に配慮したづくり」であった。

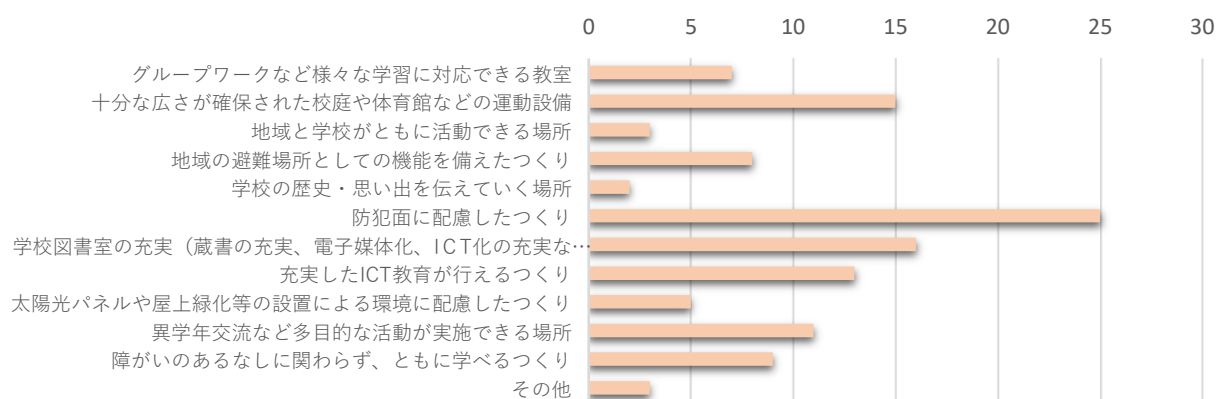


図1-3. 3位に選んだ項目の回答数

各項目を選んだ理由には、次のようなものがみられた。

(1) グループワークなど様々な学習に対応できる教室

- ・座って学ぶだけでなく、ディスカッションや体験しながら学ぶなど、効果的な学び方が出来ると良いと思う
- ・大勢にも少人数にも対応できる仕切りが稼働できるスペースがあっても良いと思います
- ・個人ではなく、仲間と一緒に学び。成長できる場所であってほしい

(2) 十分な広さが確保された校庭や体育館などの運動設備

- ・近隣に安全で思いきり駆け回ることが出来る場所は少ないため、学校では体を動かせる空間を確保してほしい。
- ・子どもたちの遊び場が減っていること、公園で球技等は禁止など運動する機会が失われているため
- ・校庭開放などはとてもありがたい。広さがある校庭、校舎は、防犯や避難所としての機能としても大事だと考える。

(3) 地域と学校がともに活動できる場所

- ・地域とのつながりが重要だと考えており、地域住民も子供達の健やかな育成に参加するという考えをもていかなければならないと思う。また今後発生するであろう大災害の際には老若男女を問わず協力できる体制作りのためにも。
- ・最近、少子化や両親の共働きにより、孤独な子供が増えています。同時に、地域の高齢化も進行し、両者の間には十分な交流がない状況があると感じています。私が地域と学校が共に活動できる場所を選んだ理由は、この課題に対する解決策を見出すためです。

(4) 地域の避難場所としての機能を備えたづくり

- ・災害が多くなることが予測されるため（天気・地震）
- ・いつどんな災害があるかわからないので、避難場所の備えがしっかりしていれば地域の人たちも安心なので
- ・学校は避難場所としてわかりやすい。避難場所とする事で地域とも深く関われる。また、子どもたちも普段から避難設備等学べる機会も増やせる。いざというときも慣れた場所に避難できるのも良いと思う。車椅子対応トイレなども検討していただけたらと思う。

(5) 学校の歴史・思い出を伝えていく場所

- ・私も板六のOBなので思い出に残る小学校にしていってほしいため。
- ・自分も自分の母も親子3代で板六の出身で思い出のある学校です。改修自体が悲しいですが、今の姿を何かしら残してほしい。

(6) 防犯面に配慮したづくり

- ・予想外の出来事が多く犯罪も多様化しているので
- ・子供たちが安心安全に過ごせるのが第一だと思うから
- ・学生どうしのトラブル、破損、暴力などの予防のため

(7) 学校図書室の充実（蔵書の充実、電子媒体化、ICT化の充実など）

- ・学童期の創造力、思考能力をより育てるため
- ・PCだと自分が調べたもの…オススメ…が履歴から推測で勝手に出てくると思うが、自分のふれた事のないジャンルの本をめにする機会は大切だと思う。
- ・周りのお友達と遊べない子でも一人でも気にせず過ごせる場所かなと思ひ、図書室の充実を選びました。

(8) 充実したICT教育が行えるづくり

- ・タブレット端末の持ち帰り充電による、子供の負担を軽減してほしい。
- ・未来で必要なスキルを磨くことができるから
- ・教室での授業には限界があると思います。

(9) 太陽光パネルや屋上緑化等の設置による環境に配慮したづくり

- ・電気代を節約することができるから
- ・環境問題が切実なため
- ・太陽光を備えることで普段から子どもたちにも資源の大切さと接する事ができる。屋上緑化でも生物多様性、共生への期待も高まる。

(10) 異学年交流など多目的な活動が実施できる場所

- ・異学年交流で大きな子を見習ったり小さな子へはお手本となったりより成長ができると思うので
- ・子供達の刺激になり、お互い楽しく学べそう。
- ・異学年のみならず、グローバルに交流をして欲しい。多国籍の方々が多いため。

(11) 障がいのあるなしに関わらず、ともに学べるづくり

- ・小さい頃からユニバーサルな環境で過ごすことで当たり前の価値観になるから
- ・現状の校舎では、車椅子の乗入れが大変難しく、保護者であっても児童であっても、また避難所として使用する上でもバリアフリー化は必須だと思います。

(12) その他

○人数に適した教室などの広さ

- ・マンションが増えて子どもの人数が増えるだろうと予想されるので。

○こどもが快適で落ち着いて集中して学習できる環境

- ・より落ち着いて集中できる環境にすることが重要と考えます。

○ビオトープや畑、庭園のような自然にふれ合える環境

- ・自然観察ができたり、先生、生徒の休憩が出来る癒しの場所があると良いと思います。

○屋内プール

- ・プールの時間があまりにも少なく驚いています。

○国産の木材をふんだんに使用した校舎

- ・地元（東京都）または板橋区と交流のある都市（金沢市、日光市、大船渡市）の木材を使用して、木のぬくもりを感じられる校舎にしてほしい。
-

上位3つに選ばれた項目の回答数は、以下のような結果であった。

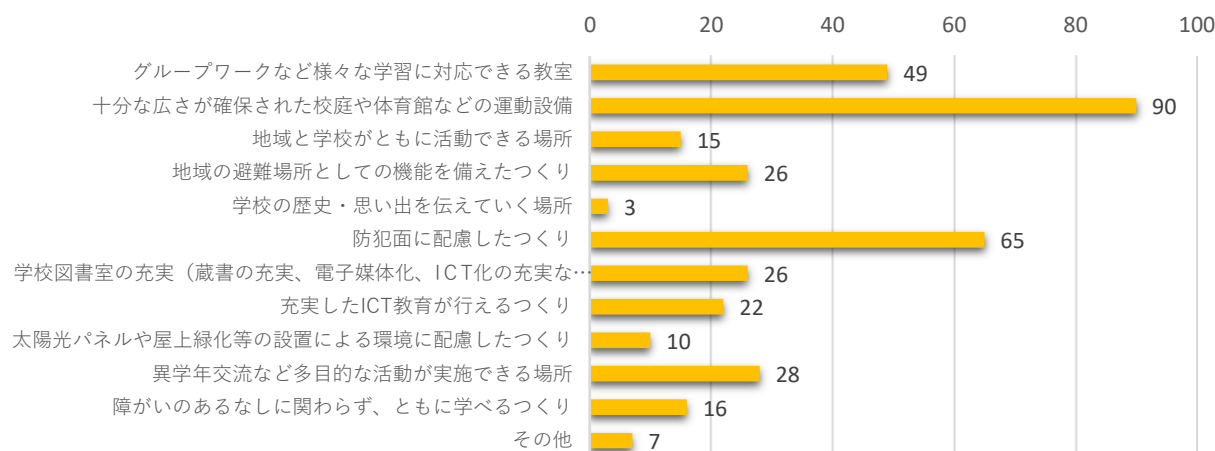


図1-4. 1～3位に選んだ項目の回答数比較

各項目の回答数は、多い順に以下のとおり。

十分な広さが確保された校庭や体育館などの運動設備
 防犯面に配慮したづくり
 グループワークなど様々な学習に対応できる教室
 異学年交流など多目的な活動が実施できる場所
 地域の避難場所としての機能を備えたづくり
 学校図書室の充実（蔵書の充実、電子媒体化、ICT化の充実など）
 充実したICT教育が行えるづくり
 障がいのあるなしに関わらず、ともに学べるづくり
 地域と学校がともに活動できる場所
 太陽光パネルや屋上緑化等の設置による環境に配慮したづくり
 その他
 学校の歴史・思い出を伝えていく場所

上位3つに選ばれた項目についてまとめる。

- ・狭小敷地のため、広い校庭を求める声が多数みられた。中には、公園が近隣にない点に言及し、学校に広い校庭を確保することで、子どもの遊び場不足など地域の課題の解決策となり得るのではないかという意見もみられた。
- ・安全が最優先であるという意見が複数みられた。不審者の侵入対策のほか、学内でのトラブルなどの抑制のために防犯カメラ等のセキュリティを求める意見が多数みられた。
- ・児童の学習環境について、多数の意見がみられた。授業時の空間や使い方の可変性、将来的な教育の多様化に対応できる設えなどフレキシブルな学習環境についての意見がありつつも、個々人や個々の学習分野に適した環境についての言及もみられる。また、複数人での学習体験を重視する教育観もうかがえる。

【質問2】第六小学校の「思い入れのあるもの（モニュメント等）」、「気にいっている部分」、「自慢できるところ」や、児童にとって「ここは良い、継承すべき」とお感じの場所があれば、お書きください。

『板六小の「思い入れのあるもの（モニュメント等）」、「気にいっている部分」、「自慢できるところ」や、児童にとって「ここは良い、継承すべき」と感じている場所』についてお聞きしたところ、アンケート回収数120に対し、合計82の回答が得られた。
(複数の意味合いととれる意見については、各項目それぞれで1回答あったものとして数えた。)

次のような意見がみられた。

○多様な居場所（自由に過ごせる/広い場所で遊べる/みんなで集まる/少人数で過ごす）【11件】

- ・ 2階のピロティのスペース（本棚、テーブル）…（略）…時には居場所や逃げ場、切り替えの場所であった
- ・ 昇降口の前のベンチ
- ・ 校庭の人工芝生
- ・ 現在は家庭科準備室となっている場所にあった、図書室の別室「絵本の森」。

○様々な体験・学習・出会い（自然/歴史/遊具）【30件】

- ・ 色んな果物の木があること
- ・ 桜と藤棚は、校庭での活動の思い出に彩りを与える
- ・ 鉄棒などの遊具
- ・ 校庭にあるタイヤの跳び箱のようなもの
- ・ 動物の飼育小屋。マンションやアパートで動物を飼えない子どもたちにとって、学校での動物に触れる機会は貴重
- ・ 中央の出入口入って右上に掲示…（略）…鳥の絵のモニュメントは私が卒業時に製作したもので思い出があります。夏休みの自治会ラジオ体操時に見ることができます
- ・ 榛名の壁面画、校庭の草木の名前板(私は板六の卒業生ですが…私の担任が作成し、今も使われている)
- ・ 正門入ってすぐのモニュメント/銀杏のなる木/鼓笛隊
- ・ 昔の道具や板六の歴史の詰まった資料室

○使いやすさ・快適さ（木の温もり/上下移動/清潔感/温熱環境/収納/ICT）【15件】

- ・ あいキッズが同じ敷地内にあること
- ・ 昇降口が3つに分かれているから、あまり混まない。/プールと体育館が校舎内にあること。
- ・ 人工芝の校庭は…衣服も汚れない

○地域開放【2件】

- ・ 商店街での鼓笛パレードや2時間店員・町探検など、地域の方とのつながり

○安心・安全（見守り・開放感/セキュリティ/衝突防止）【1件】

- ・人工芝の校庭は子供が転んでも安全

○上記以外で、建築に関連するもの【6件】

- ・体育館
- ・音楽室
- ・校舎の薄桃色を、なんらかの形で継承してほしい

○その他【17件】

- ・こころっくん教室や、日本語教室などいろいろな教室がある所
- ・上級生が下級生の世話をするところがいい

【質問3】新しい校舎で「やってみたいこと」があればお書きください。

『新しい校舎で「やってみたいこと」』についてお聞きしたところ、アンケート回収数120に対し、合計39の回答が得られた。次のような意見がみられた。

○地域交流【5件】

- ・大きな体育館で地域に向けたスポーツイベントを行いたい。
- ・地域の親に向けた講座の開催
- ・保護者と共に避難訓練。
- ・地域住民なども含めた参加者を募り、宿泊キャンプ。
- ・地域と児童の交流会

○スポーツ・運動【10件】

- ・全校ドッジボール大会
- ・卓球
- ・バスケットボールのクラブチームをつくり、子どもたちに教えたい。
- ・野球
- ・屋上プールに日除けネットを張る。
- ・プールを屋内にすれば天候に左右されない
- ・地下のプールで泳いでみたい
- ・スイミングを習っているのでプールで泳ぎたい。
- ・校庭遊び

○行事【6件】

- ・ワークショップ
- ・流しそうめん・西瓜わり
- ・七夕祭りやおばけやしきなど
- ・夏休みに学校一泊するイベント

○その他【18件】

- ・ランチルームや体育館、図書室などでの異学年交流が増えると良い。
- ・同窓会/グランドピアノを時間で借りて好きに弾く
- ・タイムカプセル
- ・以前、地域を考える授業で、「地域の人も利用できる 地下のプール」という、子どもたちの楽しいアイデアがあり…子どもたちの自由な発想を募って、「子どもたちの夢から生まれた学校」が実現したら…と思います。